元総社蒼海遺跡群（126）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１８．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（126）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１８．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(126)遠景　　調査区南東側より榛名山方面を望む

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群 (126) は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中枢地域であり、多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、蒼海城本丸西側の土塁、堀跡等を検出しました。今回の調査成果をはじめ、これまでに蓄積された資料は、国府や国府のまちを再現するための貴重な手がかりとなります。現状での保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことに厚くお礼申しあげます。

平成３０年３月

前橋市教育委員会

教育長　塩　﨑　政　江

例　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（126）埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称	元総社蒼海遺跡群（126）
調査場所	群馬県前橋市元総社町 1893-1、1908-2、1909-1、1930
遺跡コード	29 A 233
発掘・整理担当者	山本千春（有限会社毛野考古学研究所）
発掘調査期間	平成 29 年 10 月　2 日～平成 29 年 11 月 17 日
整理・報告書作成期間	平成 29 年 11 月 20 日～平成 30 年　3 月 23 日

3．本書の原稿執筆は I を小峰　篤（前橋市教育委員会）、他を山本が担当した。

4．本書の石器実測図・観察表に関しては、土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が行った。

5．本遺跡に関わる遺構測量に関しては、亀田浩子（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、小出拓磨（同）がこれを補佐した。

6．出土した人骨については、大妻女子大学博物館　楢崎修一郎氏より玉稿を賜った。記して感謝の意を表します。

7．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】 天田眞由美・北野信二・久保口　寛・栗田　満・小関泰洋・小山茂男・桜井　豊・笹尾倍次・近田雅行・永井述史・長岡　保・中島勝由・中島佑輔・馬場陽典

【整理作業】 石原理久子・磯　洋子・小野澤絹子・合田幸子・長島美和子・莅戸玲子・深谷道子・半澤利江・真下弘美・山下奈邦子

8．発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

9．発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。
記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
山下工業株式会社　元総社町自治会

凡　例

1．遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60・1/100・1/120・1/200 縮尺で表現し、掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。

2．遺物実測図の縮尺は、1／2～1／6 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3．遺構実測図で使用しているトーンについては、随時図中に注釈を付してある。

4．遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。

【断面】 須恵器

【器面】 灰釉　青磁　油煙・煤　鉄銹化部　熱変成　ガラス質

5．遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。
H：竪穴住居跡　T：竪穴状遺構　I：井戸　W：溝・堀　D：土坑　P：ピット　SX：不明遺構

6．遺構覆土および土器類の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に拠った。

7．本文中や挿表中において、[　] は残存値を、(　) は推定値をそれぞれ示す。

8．本文中や挿図中では、『城館調査の手引き』（山川出版社）にならい、「郭の縁辺部に土盛りをして防護壁とした施設」を「土居」ではなく、「土塁」と表記した。

9．本書作成のために使用した参考・引用文献については、諸般の都合で一部割愛した。ご寛恕願いたい。

目　次

口絵写真
はじめに
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　地理的・歴史的環境 …… 2
　1．地理的環境…… 2
　2．歴史的環境…… 3
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 7
　1．調査の方法…… 7
　2．調査の経過…… 7
Ⅳ　標準堆積土層 …… 11
Ⅴ　遺構と遺物 …… 11
　1．竪穴住居跡…… 11
　2．竪穴状遺構…… 11
　3．土塁…… 11
　4．溝…… 12
　5．井戸…… 13
　6．土坑…… 13
　7．不明遺構…… 14
　8．ピット…… 15
Ⅵ　元総社蒼海遺跡群(126)出土の人骨…… 37
Ⅶ　まとめ…… 38

写真図版
抄　録
奥　付

挿　図　目　次

Fig. 1　調査区域図…… 1
Fig. 2　遺跡の位置…… 2
Fig. 3　周辺の遺跡…… 3
Fig. 4　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図…… 5
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（1面）…… 8
Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（B区2面）…… 9
Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（B区ピット群）…… 10
Fig. 8　遺構実測図（1）…… 16
Fig. 9　遺構実測図（2）…… 17
Fig.10　遺構実測図（3）…… 18
Fig.11　遺構実測図（4）…… 19
Fig.12　遺構実測図（5）…… 20
Fig.13　遺構実測図（6）…… 21
Fig.14　遺構実測図（7）…… 22
Fig.15　遺構実測図（8）…… 23
Fig.16　遺構実測図（9）…… 24
Fig.17　遺構実測図（10）…… 25
Fig.18　遺構実測図（11）…… 26
Fig.19　遺構実測図（12）…… 27
Fig.20　遺物実測図（1）…… 28
Fig.21　遺物実測図（2）…… 29
Fig.22　遺物実測図（3）…… 30
Fig.23　遺構実測図（4）…… 31
Fig.24　遺構実測図（5）…… 32
Fig.25　遺構実測図（6）…… 33
Fig.26　掘立柱建物跡試案図…… 39
Fig.27　本調査地と周辺蒼海域鳥瞰想定図…… 40
Fig.28　蒼海域堀跡変遷想定図…… 40

挿　表　目　次

Tab. 1　周辺遺跡一覧表…… 6
Tab. 2　ピット一覧表（1）…… 15
Tab. 3　ピット一覧表（2）…… 16
Tab. 4　出土遺物観察表（1）…… 34
Tab. 5　出土遺物観察表（2）…… 35
Tab. 6　出土遺物観察表（3）…… 36

写 真 図 版 目 次

ＰＬ．１
Ａ区全景（上が東）
Ａ区全景（上が東）
Ａ区北壁土層断面（南から）
Ａ区東壁土層断面（北西から）
作業風景

ＰＬ．２
調査区１面全景（上が東）
調査区１面全景（上が東）

ＰＬ．３
Ｂ区２面全景（上が北）
Ｂ区東壁土層断面北側（北西から）
Ｂ区東壁土層断面南側（北西から）
Ｐ－１～４礫出土状態（南西から）
Ｐ－１礫出土状態（南西から）

ＰＬ．４
Ｐ－２礫出土状態（西から）
Ｐ－３・４礫出土状態（南から）
Ｈ－１号住居跡遺物出土状態（西から）
Ｈ－１・３号住居跡全景（西から）
Ｈ－２号住居跡遺物出土状態（西から）
Ｈ－２号住居跡全景（西から）
Ｔ－１号竪穴状遺構遺物出土状態（南から）
Ｔ－１号竪穴状遺構遺物出土状態近景（南西から）

ＰＬ．５
Ｔ－１号竪穴状遺構遺物出土状態近景（南から）
Ｔ－１号竪穴状遺構全景（南から）
Ｗ－５号溝全景（東から）
Ｗ－６号溝全景（南から）
Ｗ－７号溝全景（東から）
Ｗ－８号溝全景（北から）
Ｉ－１号井戸土層断面上層（南から）
Ｉ－１号井戸土層断面中層（南から）

ＰＬ．６
Ｄ－１号土坑土層断面（南から）
Ｄ－１号土坑全景（北から）
Ｄ－３・４号土坑遺物出土状態（北から）
Ｄ－４号土坑遺物出土状態（北東から）
Ｄ－５号土坑全景（東から）
Ｄ－６号土坑全景（東から）
Ｄ－７号土坑土層断面（南から）
Ｄ－７号土坑人骨・古銭出土状態（南から）

ＰＬ．７
Ｄ－８号土坑全景（南西から）
Ｄ－１・９号土坑全景（北から）
Ｄ－10号土坑遺物出土状態（東から）
ＳＸ－１・３号不明遺構全景（北から）
ＳＸ－２号不明遺構全景（東から）
Ｐ－35敷石検出状態（南東から）
Ｐ－46敷石検出状態（南東から）
Ｐ－137敷石検出状態（南東から）

ＰＬ．８
出土遺物（１）

ＰＬ．９
出土遺物（２）

ＰＬ.10
出土遺物（３）

ＰＬ.11
出土遺物（４）

Ⅰ　調査に至る経緯

平成２９年７月５日付けで、前橋市長　山　本　　龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に同区画整理事業に伴う発掘調査を実施中であることから、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務委託することで依頼者である前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年８月１７日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約が締結された。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(126)」（遺跡コード：29A233）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「(126)」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

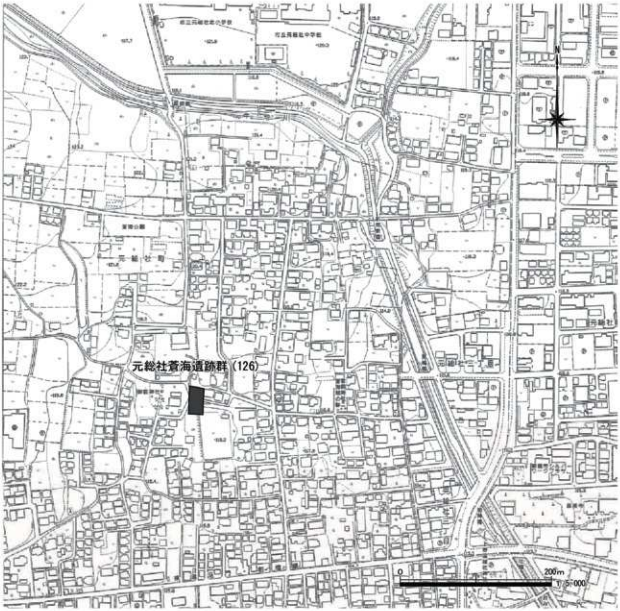


Fig. 1　調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現況図 51-2』）

Ⅱ　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

元総社蒼海遺跡群が所在する前橋市は群馬県の中央からやや東寄りに位置し、北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。

調査地点は相馬ヶ原扇状地の末端に位置する。この相馬ヶ原扇状地は榛名山の陣場岩屑なだれ（約 1.3 万年前）による砂礫層が厚く堆積して形成される。同層下には浅間山の応桑岩屑なだれ（約 2.3 ～ 2.4 万年前）に起因する前橋泥流が赤城山・浅間山の両火山間から利根川を経て南東方向へ流出し、緩傾斜地の扇状地性台地を形成している。陣場岩屑なだれによる堆積物の上には前橋泥炭層（約 1.1 万年前）や総社砂層が厚く堆積する。

台地の東部には広瀬川低地帯との間に崖線が走り、中央には利根川が南流するが、現流路は中世以降のもので、旧流路は現在の広瀬川流域とされる。本遺跡地周辺には榛名山麓を源とする染谷川・牛池川・八幡川などの中小河川が相馬ヶ原扇状地上に南東流し、台地面を刻んで細い微高地を形成する。なお、これらの河川は相馬ヶ原扇状地を抜けて台地へ出ると南東から南方向へと流路を変えているが、こうした地形の制約に大きく影響を受ける河川の流路変更は洪水を起こす温床と考えられ、同扇状地上に堆積する泥炭層、洪水層、総社砂層は度重なる洪水によってもたらされた堆積物によって形成された可能性が指摘されている。

本遺跡は、前橋市域の西部、前橋市元総社町地内に所在する。利根川を隔て東へ 2.4kmに県庁（厩橋城跡）、南東 0.3kmに総社神社があり、西 0.7kmには関越自動車道が南北に走る。周辺は近年の区画整理事業の開発に伴い、道路建設や住宅地化、商業施設の林立が著しいが、周囲には畑地を伴う閑静な住宅街が広がる。

主要引用・参考文献
早田　勉　1990 「第 1 章　群馬県の自然と風土」『群馬県史　通史編 1』
日沖剛史　2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』 1 号　地域考古学研究会

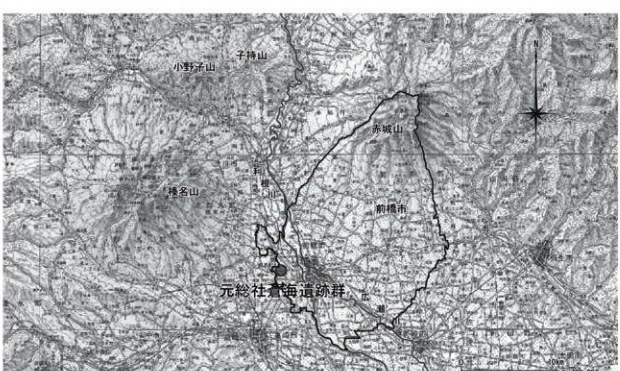


Fig. 2　遺跡の位置　（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20 万分の 1 図を改変）

2．歴史的環境

本遺跡地は上野国分寺跡の南東 1.2㎞に位置し、本遺跡地周辺では県内でも著名な遺構が存在する。榛名山麓より流下する染谷川・牛池川・八幡川等の小河川は遺跡の占地に影響を与え、その流域である国分・元総社・総社・大渡地域は遺跡密集地となっている。

縄文時代では、八幡川、牛池川、染谷川流域の微高地上に立地する元総社蒼海遺跡群（３）・（４）・(13)・(24)・(48)、元総社小見遺跡、小見Ⅶ遺跡などで、前期後葉・諸磯式期と中期後葉・加曽利Ｅ式期２時期の集落跡が確認される。また、八幡川、滝川などの小河川によって開析された低台地の南端にある産業道路東遺跡から中期後半・加曽利Ｅ式期住居跡が検出されている（上野国分僧寺・尼寺中間地域では加曽利ＥⅢ式期の拠点的集落が確認されている）。近接する産業道路西遺跡では、後期前半の住居跡が確認されている。元総社蒼海遺跡群（101）には後期・加曽利Ｂ式期主体の土坑群が検出されたが、集落が確認されていないため、単独墓域の可能性がある。晩期は、元総社蒼海遺跡群（７）・（９）・（10）で前半の住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は調査事例が少なく、後期・樽式期の住居跡が上野国分僧寺・尼寺中間地域等で散見される程度である。生産遺構としては、日高遺跡など平野部の後背湿地において浅間Ｃ軽石（Ａｓ－Ｃ：３世紀後半～４世紀初頭）下の水田跡が検出されている。

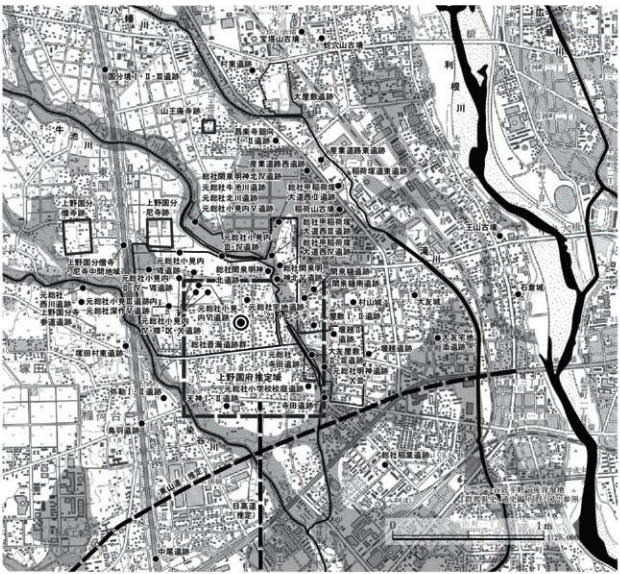


Fig. 3　周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25,000 分の１図を改変）

古墳時代は、前期の集落が、元総社蒼海群（40）や小見Ⅴ遺跡などの染谷川左岸と元総社蒼海遺跡群（38）などの牛池川右岸に形成される。中期になると三ッ寺地域において首長層の居館跡（三ッ寺Ⅰ遺跡など）が牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開するが、総社地域では発見例に乏しい。後期になると遺跡数が増大し、国府が機能し始めるまで連綿と継続する様相が窺える。集落に伴う水田は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、周溝墓群は元総社蒼海遺跡群（56・61・62・100）などの牛池川左岸に展開する。古墳は本地域においても数多く築造されており、利根川右岸に遠見山古墳（5世紀後半）が築造されたのをはじめ、6世紀には五山古墳・総社二子山古墳、7世紀には愛宕山古墳・宝塔山古墳や蛇穴山古墳などの首長墓が造営され、これらは総社古墳群と呼称される。また、総社古墳群の南西1㎞には7世紀後半に山王廃寺（放光寺）が建立され、塑像群や緑釉陶器、金銅製飾金具などが出土している。また、同寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術が用いられているとされる。

この後、元総社地区において上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の文化的中心地として再編成される。上野国府は本遺跡地周辺が推定域となっており、これに関連する遺跡として元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）・関泉桶遺跡で東西方向、元総社明神遺跡遺跡で南北方向の大溝が確認されたことにより、国府域における北及び東外郭線が想定された。また、元総社蒼海遺跡群（9）から大型建物跡、元総社小学校校庭遺跡から大型掘立柱建物、元総社蒼海遺跡群（95）では2棟重なる掘立柱建物跡、元総社蒼海遺跡群（99）および国府28トレンチでは掘込地業建物、元総社寺田遺跡では「國厨」「国」「曹司」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土している。更に周辺遺跡からは官人が使用していたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府の傍証する資料の増加が報告されている。

国分僧寺は昭和55年により本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・塀などが捉えられている。国分尼寺は、昭和44・45年にトレンチ調査が行われ、伽藍配置の憶測が可能になった。この結果を基に、平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団による寺域確認調査が行われ、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構が確認された。

奈良時代から平安時代前半（8～9世紀）の集落遺跡は、牛池川と染谷川に挟まれた台地および牛池川左岸上に展開する傾向にある。対して国府推定域の中心部では希薄であることから、明確な区分けがなされていたことが看取される。10世紀に入ると元総社地域では集落数が増大し、その分布に偏在性はみられない。数こそ減少するものの、その傾向は11世紀にも継続する傾向がみられる。こうした集落域の変化は、国府関連施設が中枢としての機能が失われていたこととに起因し、竈の構築材に同施設の瓦が転用されていることがそれを傍証する事例として指摘されている。

中世に入ると本地域は上野守護代に任命された総社長尾氏が総社城（蒼海城）を築城して本拠地とした。同城は染谷川とその支流牛池川に挟まれた、径1.2㎞を縄張りとする県内最古級に位置付けられる城郭で、上野国府の地割を利用したものとされる。近年の区画整理事業に伴う発掘調査の増加により、主郭周辺の堀や建物跡、井戸などの関連遺構が調査されている。元総社蒼海遺跡群（27）では堀及び二の丸に関連する無数の柱穴群が確認され、元総社蒼海遺跡群（24・25・27）では12～15世紀代の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉、白磁などの貿易陶磁が多数出土し、中心は15世紀後半である。また、本地域周辺には永禄8年（1565）に武田信玄が厩橋城の上杉謙信と交戦するために築いた石倉城をはじめ、大友城や北条氏直の配下・村上佐渡守の居城であった村上城などの城館が築城されている。

江戸時代になり、慶長6年（1601）に秋元長朝が入封するも、利根川西岸緑の植野に総社城を築いて蒼海城は廃城となった。なお、惣社城が完成するまでの慶長6年（1601）からの10年間は蒼海城の東に位置する八日市城に在城している。長朝は領内の経済基盤を安定させるため、慶長9年（1604）に天狗岩用水を開削し、現在でもなお農業用水として利用されている。

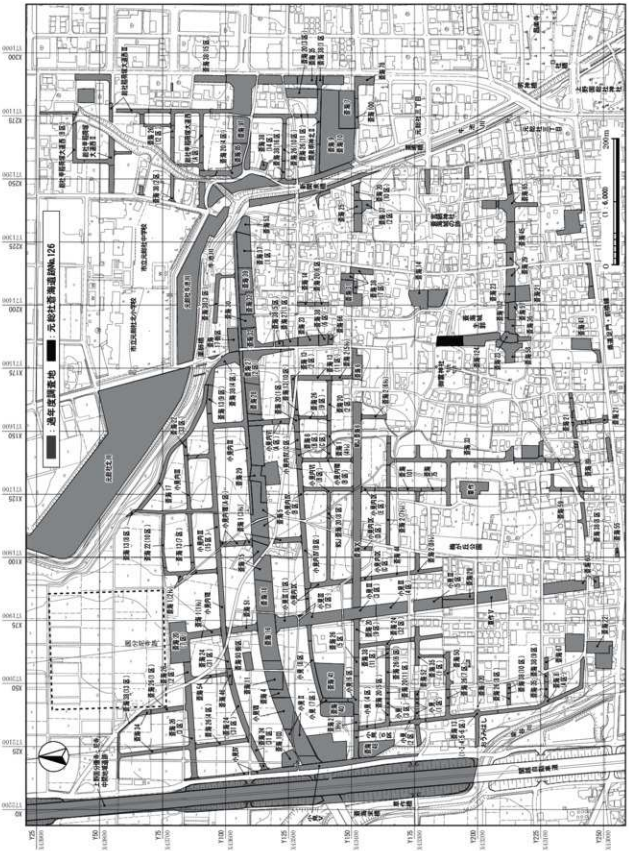


Fig. 4　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

遺跡名	調査年度	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
元総社香海遺跡群（1）	2005				●	●	
元総社香海遺跡群（2）	2005				●	●	
元総社香海遺跡群（3） 元総社小見VII遺跡	2005	●		●	●	●	
元総社香海遺跡群（4）	2005	●	●	●	●		
元総社香海遺跡群（5）	2005			●	●	●	
元総社香海遺跡群（6）	2005			●	●	●	
元総社香海遺跡群（7）	2005				●	●	
元総社香海遺跡群（8）	2006			●	●	●	
元総社香海遺跡群（9）（10）	2006	●		●	●		
元総社香海遺跡群（11）	2006				●	●	
元総社香海遺跡群（12）	2006			●	●	●	
元総社香海遺跡群（13）	2008	●		●	●		
元総社香海遺跡群（14）	2008			●	●	●	
元総社香海遺跡群（15）	2008				●	●	
元総社香海遺跡群（16）	2008				●		
元総社香海遺跡群（17）	2008			●	●	●	
元総社香海遺跡群（18）	2008				●	●	
元総社香海遺跡群（19）	2008			●			
元総社香海遺跡群（20）	2008			●	●	●	
元総社香海遺跡群（21）	2009			●	●		
元総社香海遺跡群（22）	2009			●	●		
元総社香海遺跡群（23）	2009			●	●	●	
元総社香海遺跡群（24）	2009	●		●	●	●	
元総社香海遺跡群（25）	2009			●	●		
元総社香海遺跡群（26）	2009				●	●	
元総社香海遺跡群（27）	2009			●	●	●	
元総社香海遺跡群（28）	2009			●	●	●	
元総社香海遺跡群（29）	2009			●	●	●	
元総社香海遺跡群（30）	2009			●	●	●	
元総社香海遺跡群（31）	2009			●		●	
元総社香海遺跡群（32）	2010			●	●	●	
元総社香海遺跡群（33）	2010			●	●	●	
元総社香海遺跡群（34）	2010				●	●	
元総社香海遺跡群（35）	2010	●		●	●	●	
元総社香海遺跡群（36）	2010			●		●	
元総社香海遺跡群（37）	2011			●	●	●	
元総社香海遺跡群（38）	2012			●	●	●	
元総社香海遺跡群（39）	2012			●	●	●	
元総社香海遺跡群（40）	2013	●		●	●		
元総社香海遺跡群（41）	2013	●		●	●	●	
元総社香海遺跡群（42）	2013					●	
元総社香海遺跡群（43）	2013				●	●	
元総社香海遺跡群（44）	2013				●	●	
元総社香海遺跡群（45）	2013			●	●	●	
元総社香海遺跡群（46）	2013				●		
元総社香海遺跡群（47）	2013					●	
元総社香海遺跡群（48）	2013	●		●	●		
元総社香海遺跡群（49）	2013				●		
元総社香海遺跡群（50）	2013	●			●		
元総社香海遺跡群（51）	2013			●	●		
元総社香海遺跡群（52）	2013						
元総社香海遺跡群（53）	2013			●	●		
元総社香海遺跡群（54）	2013						
元総社香海遺跡群（55）	2013				●		
元総社香海遺跡群（56）（61）	2013			●	●		
元総社香海遺跡群（57）	2014					●	
元総社香海遺跡群（58）	2014				●	●	
元総社香海遺跡群（59）	2014				●		
元総社香海遺跡群（60）	2014			●	●	●	
元総社香海遺跡群（62）	2014			●			
元総社香海遺跡群（63）	2014			●	●		
元総社香海遺跡群（64）	2014				●	●	
元総社香海遺跡群（65）	2014			●	●	●	
元総社香海遺跡群（66）	2013			●		●	
元総社香海遺跡群（67）	2013			●			
元総社香海遺跡群（68）	2013				●	●	
元総社香海遺跡群（72）	2013				●		
元総社香海遺跡群（73）	2013						
元総社香海遺跡群（81）	2014				●		
元総社香海遺跡群（82）	2014			●	●		

遺跡名	調査年度	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
元総社香海遺跡群（84）	2014				●		
元総社香海遺跡群（85）	2014				●	●	
元総社香海遺跡群（88）	2014						
元総社香海遺跡群（89）	2014					●	
元総社香海遺跡群（90）	2014					●	
元総社香海遺跡群（91）	2014			●	●	●	
元総社香海遺跡群（95）	2014			●	●		
元総社香海遺跡群（96）	2014						
元総社香海遺跡群（97）	2014				●	●	
元総社香海遺跡群（98）	2014					●	
元総社香海遺跡群（99）・上野国府等範囲内容確認調査33・34トレンチ	2015				●		
元総社香海遺跡群（100）	2014			●	●	●	
元総社香海遺跡群（101）	2014	●			●	●	
元総社香海遺跡群（117）	2016				●		
元総社香海遺跡群（118）	2016				●	●	
元総社香海遺跡群（17 南区）	2015			●	●	●	
元総社香海遺跡群（93 南区）				●	●	●	
元総社小見遺跡	2000	●		●	●		
元総社小見II遺跡	2002	●		●	●	●	
元総社小見III遺跡	2002	●		●	●	●	
元総社小見IV遺跡	2003	●		●	●	●	
元総社小見V遺跡	2003	●		●	●	●	
元総社小見VII遺跡	2004	●		●	●		
元総社小見VIII遺跡	2001		●	●	●	●	
元総社小見VIII遺跡	2002				●	●	
元総社小見VIII遺跡	2003				●	●	
元総社小見VIII遺跡	2003	●			●		
元総社小見VIII遺跡	2003				●	●	
元総社小見IX遺跡	2004				●		
元総社小見X遺跡	2004			●	●	●	
元総社深作遺跡	1984				●		
元総社深作V遺跡	2002			●	●	●	
元総社宅地遺跡 1～8 トレンチ	2000			●	●		
元総社宅地遺跡 9～12 トレンチ	2000					●	
元総社宅地遺跡 19 トレンチ	2000					●	
元総社宅地遺跡 20 トレンチ	2000						
元総社宅地トレンチ 22・23 トレンチ・上野国府等範囲内容確認調査 13 トレンチ	2012			●	●		
上野国府等範囲内容確認調査 1～7 トレンチ	2011			●	●		
上野国府等範囲内容確認調査 8～11・13・14・28 トレンチ	2012			●	●		
上野国府等範囲内容確認調査 12 トレンチ	2012			●	●		
上野国分尼寺（上野国分尼寺寺域確認調査）	1969～2000				●		
総社平稲荷塚大道西遺跡	2001				●	●	●
総社平稲荷塚大道西 II 遺跡	2001			●	●		●
総社平稲荷塚大道西 III 遺跡	2002			●	●		
総社平稲荷塚大道西 IV 遺跡	2003			●		●	
総社関泉明神北遺跡	1999			●			
総社関泉明神北 II 遺跡	2001			●	●		
総社関泉明神北 III 遺跡	2002	●		●	●		
総社関泉明神北 IV 遺跡	2002～2004			●			
総社関泉明神北 V 遺跡	2004			●	●		
関東隧道遺跡	1983			●	●		
関東隧南遺跡	1985			●			
元総社中学校遺跡	2016			●	●		
元総社北川遺跡	2002～2004	●	●	●	●		
元総社牛池川遺跡	2002～2004			●		●	

Ⅲ　調査の方法と経過

1．調査の方法

発掘調査の依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い新設される道路用地等である。調査区は現道を境に２つの地点に分かれており、北側よりＡ・Ｂ区と名称を付した。

調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている４ｍごとの方眼（日本測地系）を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へＸ：184、Ｘ：185、Ｘ：186…、北から南へＹ：185、Ｙ：186、Ｙ：187…、と設定した。本遺跡のＸ：187、Ｙ：190 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系　　Ｘ＝＋ 43244.000　　Ｙ＝－ 71452.000

世界測地系　　Ｘ＝＋ 43598.911　　Ｙ＝－ 71743.763

今回の調査対象地では現況で土塁が遺存していることや、これに伴う堀跡が周辺の過年度調査地において確認されていることから、調査対象は主に蒼海城の堀および土塁となることが想定された。また、本調査地は上野国府想定地内に含まれることから、土塁部分に関しては２面調査を行うこととなった。調査方針について前橋市教育員会と協議を重ねた結果、Ａ区の調査対象は蒼海城の堀とし、安全管理等を考慮して、トレンチ調査での対応をすることとなった。トレンチは堀の走行方向が捉えられるよう、調査区北壁～東壁に対しＬ字状に設定して調査を行った。Ｂ区は、１面となる蒼海城の土塁および堀跡の調査を行った後、重機で土塁の築成土を掘削して２面の調査を行った。調査の方法は表土等を重機で掘削をした後、人力による遺構検出作業および掘削を行った。遺構の掘削にあたっては土層観察用のベルト設定および半截をし、遺構の把握に努めた。記録作業は測量および写真撮影で対応し、進捗状況に応じて適宜行った。遺構図面は平面・断面図とも 1/20 縮尺を基本とし、平面図および出土遺物の出土地点はトータルステーションを用い、断面図は手実測で測量をした。遺構写真は 35㎜判のフィルムカメラ（白黒・カラーリバーサル）とデジタルカメラで撮影・記録をし、全体写真はドローンによる空中写真撮影を実施した。なお、現地調査では安全柵や注意喚起の看板設置など、出来得る限りの安全対策を行った。

2．調査の経過

発掘調査は平成 29 年 10 月２日から平成 29 年 11 月 17 日まで、整理作業・報告書作成は平成 29 年 11 月 20 日から平成 30 年３月 23 日までの期間にそれぞれ実施した。以下に概要を記す。

【発掘調査】

10 月３日：重機による表土掘削を開始。簡易トイレの搬入。４日：発掘補助員が就業し、Ｂ区１面の調査開始。基準点測量。６日：ボックスハウスの搬入。10 日：クローラーを搬入し、排土の場内搬出。12 日：Ａ区トレンチの土層断面写真撮影。前橋市教育委員会によるＡ区終了確認。14 日：ドローンによるＡ区の空中写真撮影。18 日：ドローンによるＢ区１面の空中写真撮影。20 日：前橋市教育委員会によるＢ区１面の調査終了確認。24 日：Ｂ区２面の調査開始。重機で土塁の盛土を掘削し、クローラーにて排土を搬出。

11 月 14 日以降：ボックスハウス・簡易トイレの撤去。調査区埋め戻し。17 日：全作業工程完了。

【整理作業・報告書作成】

11 月期：遺構図面・写真の基礎整理。遺物洗浄・注記。12 月期：遺構図面の修正、第２原図作成。遺物写真撮影・実測・トレース。１月期：各挿図・図版作成。原稿執筆。２月期：報告書の編集作業。原稿執筆。３月期：入稿・校正。印刷・製本。報告書刊行・納品。

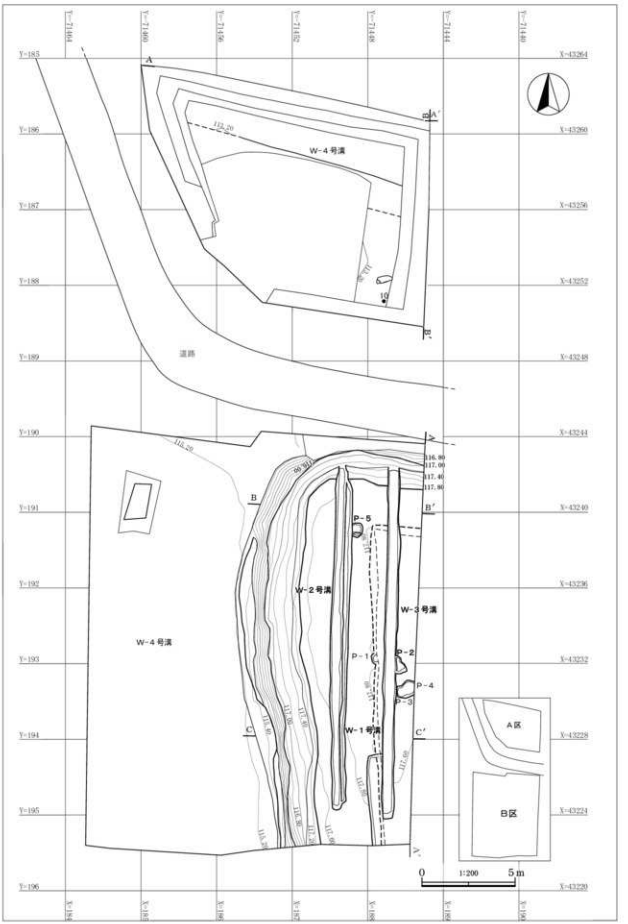


Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（1面）

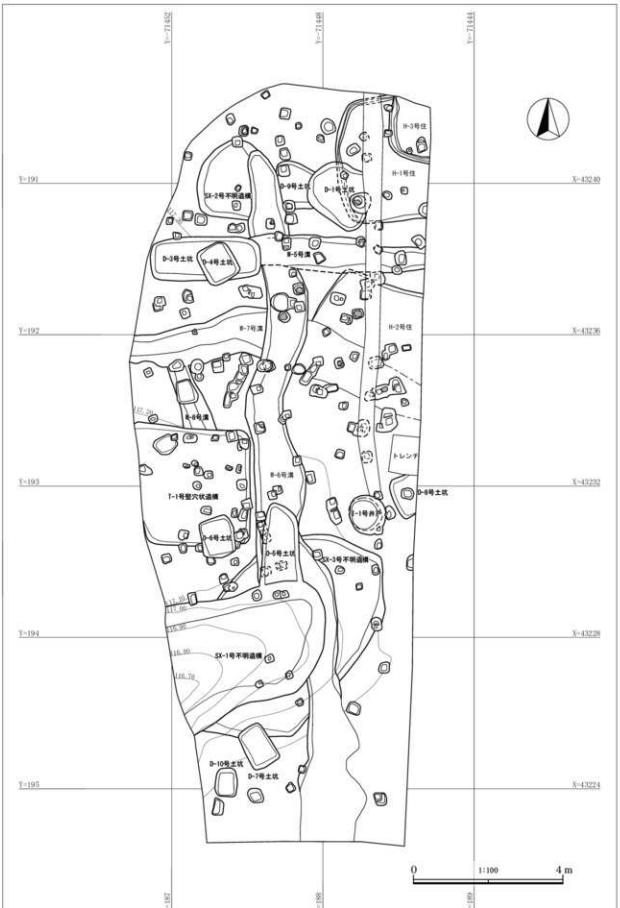


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（B区２面）

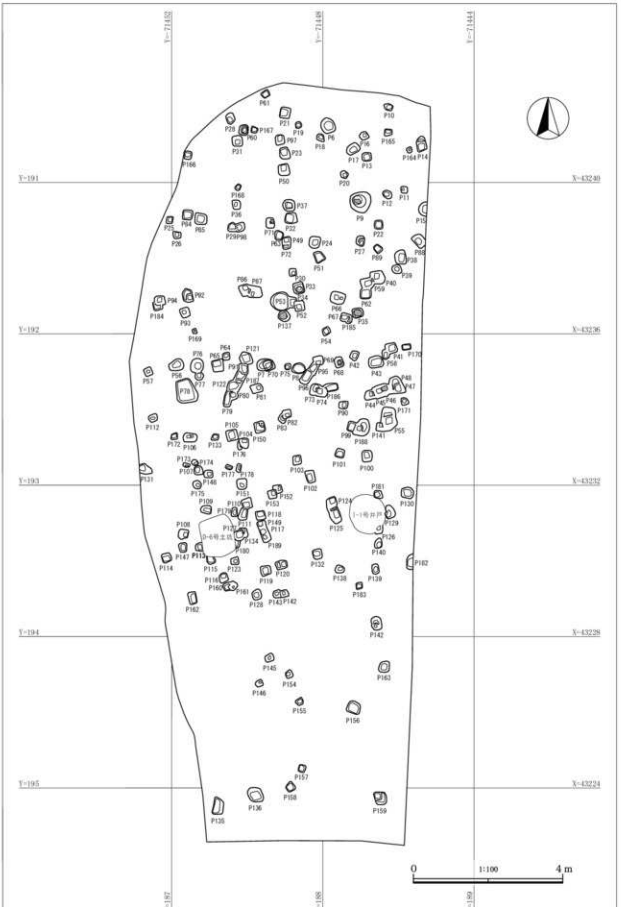


Fig. 7　元総社蒼海遺跡群（126）遺構全体図（B区ピット群）

Ⅳ　標準堆積土層

本調査区は染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地している。今回は調査区のほぼ全域が遺構範囲内にあたることから、基本層序を調査区内から明確に捉えることはできなかったため、近隣の調査成果を参照した。現地では遺構が総社砂層（11,000 ～ 5,000 年前）を基盤に構築されている点や堀底の一部でＡｓ－ＹＰ（浅間－板鼻黄色軽石：13,000y.B.P 年前降下）を確認した。これを踏まえると、本調査区は客土・表土→近世以降の耕作土・造成土→中世以降の造成土・構築土→Ａｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1108 年降下）・Ａｓ－Ｃ（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半降下）混土層が堆積し、さらにその下には総社砂層が 2.5 ｍ程度の深さで堆積している状況が確認された。多少の重層差はあろうものの、近隣で確認されている地盤とほぼ同様と考えられる。なお、総社砂層下位にはＡｓ－Ｓｊ（浅間－総社軽石：11,000 年前降下）、Ａｓ－ＹＰ（浅間－板鼻黄色軽石：13,000y.B.P 年前降下）が堆積していることが報告されている。

Ⅴ　遺構と遺物

１．竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 6、PL. ３・４・８）

位置：Ｘ 188、Ｙ 190・191 グリッド　**主軸方向**：Ｎ－ 96°－Ｅ。**規模**：東西軸［2.42］ｍ、南北軸 3.35 ｍ、壁現高 6 ㎝。**形状等**：平面形態は方形、断面形態は皿状を呈する。**重複**：Ｈ－３→Ｈ－１→Ｗ－３・Ｄ－１。**遺物**：埋没土中から土師器（坏・甕）、須恵器（高台碗・甕・壺）、古代瓦の他、紛れ込みと思われるかわらけ、内耳鍋の小破片が出土した。掲載資料は２点。**時期**：平安時代。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 6、PL. ３・４・８）

位置：Ｘ 187･188、Ｙ 191･192 グリッド　**主軸方向**：Ｎ－ 64°－Ｗ。**規模**：[3.20] ｍ× [2.10] ｍ、壁現高 6 ㎝。**形状等**：平面形態は方形基調、断面形態は皿状を呈する。**重複**：Ｈ－２→Ｗ－３・５・７。**遺物**：埋没土中から土師器（甕）、古代瓦の他、紛れ込みと思われるかわらけ、焼締陶器（甕・壺）の小破片が出土した。掲載資料は１点。**時期**：平安時代。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 6、PL. ３・４）

位置：Ｘ 188、Ｙ 190 グリッド　**主軸方向**：Ｎ－ 80°－Ｗ。**規模**：[1.65] ｍ× [1.20] ｍ、壁現高数㎝。**形状等**：平面形態は方形基調、断面形態は皿状を呈する。**重複**：Ｈ－２→Ｈ－１。**遺物**：なし。**時期**：（古代）。

２．竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig. 6、PL. ３・４・８）

位置：Ｘ 186･187、Ｙ 192･193 グリッド　**主軸方向**：Ｎ－１°－Ｅ。**規模**：東西軸 [3.19] ｍ、南北軸 3.08 ｍ、壁現高 20㎝。**形状等**：方形を呈する。**重複**：Ｔ－１→Ｄ－６。Ｗ－８との新旧関係は不明。**遺物**：埋没土中から土師器細片、須恵器（坏・甕・壺）、古代瓦、かわらけ、陶器（碗・皿・火鉢）、焼締陶器（甕・壺）、羽口が出土した。掲載資料は６点。**時期**：中世以降。**備考**：北西側からＰ１が確認された。規模は長軸 57㎝、端軸 48㎝。残存深度は８㎝である。覆土中から須恵器の坏（１）が出土した。軸方位等から、本遺構に伴うかは検討を要する。

３．土塁（Fig. 5、PL. ２・３・８・９）

土塁はＢ区１面から確認され、蒼海城本郭（本丸）とされる郭の北西隅にあたる。Ｂ区堀跡（Ｗ－４号溝）確認面からの比高差はおよそ 2.72 ｍを測る。構築方法は、地盤層である総社砂層の上面に堆積する古代堆積層上面に、郭の造成土あるいは堀の掘削土を使用して盛り土をし、構築されたものと考えられる。細かな単位での盛

土や版築されたような痕跡は看取されなかった。現存する築成土は外法側程、総社砂層ブロックの含有量が顕著であることから、堀の掘削時に外法面の総社砂層を削り込んで掻き揚げられたものと推測される。現存高は最大で68cm程である。B区東壁の土層断面第11層以南を天端部分の観察と合わせ、内法の法肩となる可能性も考えられたが、狭小な範囲での見解であるため、築成土の単位である可能性も否定できない。遺物は土師器片、古代瓦、かわらけ、緑泥片岩片の他、被覆層～検出面より近世後期～近代の陶磁器類が出土している。掲載資料は7点。

4．溝

W－1号溝（Fig. 5、PL. 3・9）

位置：X 187、Y 190 ～ 194 グリッド　**主軸方位**：N－2°－W。**規模**：長さ：[17.26] m。上端幅 0.73 m、下端幅 0.32 m。**深さ**：0.34 m。**形状等**：南北方向に走行し、北から南へ10cm程傾斜する。断面は逆台形状を呈する。**重複**：蒼海城土塁→W－2→W－1。**遺物出土状態**：埋没土中から須恵器（高坏）、鉄製品（釘カ）が出土した。掲載資料は1点。**時期**：蒼海城土塁構築最終段階以後に構築されていることから、近世以降と考えられる。**備考**：W－2・3と規模や形状等が類似するため、同一の性格を持つ遺構と判断される。耕作溝か。

W－2号溝（Fig. 5、PL. 3）

位置：X 187、Y 190 ～ 194 グリッド　**主軸方位**：N－2°－W。**規模**：長さ：[18.36] m。上端幅 0.52 m、下端幅 0.49 m。**深さ**：0.50 m。**形状等**：南北方向に走行し、北から南へ10cm程傾斜する。断面は逆台形状を呈する。**重複**：蒼海城土塁→W－2→W－1。**遺物出土状態**：埋没土中から焙烙が出土したが、細片であるため図示はしなかった。**時期**：蒼海城土塁構築最終段階以後に構築されていることから、近世以降と考えられる。**備考**：W－1・3と規模や形状等が類似するため、同一の性格を持つ遺構と判断される。耕作溝か。

W－3号溝（Fig. 5、PL. 3）

位置：X 188、Y 190 ～ 194 グリッド　**主軸方位**：N－2°－E。**規模**：長さ：[18.72] m。上端幅 0.56 ～ 0.70 m、下端幅 0.43 m。**深さ**：0.28 ～ 0.53 m。**形状等**：南北方向に走行し、北から南へ20cm程傾斜する。断面は逆台形状を呈する。**重複**：蒼海城土塁→W－3。**遺物出土状態**：埋没土中から古代瓦、かわらけ、陶器（火鉢）、焙烙が出土したが、細片であるため図示はしなかった。**時期**：蒼海城土塁構築最終段階以後に構築されていることから、近世以降と考えられる。**備考**：W－1・2と規模や形状等が類似するため、同一の性格を持つ遺構と判断される。耕作溝か。

W－4号溝（Fig. 5、PL. 9・10）

位置：X 184 ～ 188、Y 185 ～ 188 グリッド　**概要**：A区では堀跡の走行方向を捉えるため、トレンチを調査区北壁及び東壁に対し、L字状に設定した。北壁のトレンチ幅は3.3 m、長さ 13.7 mで、東壁のトレンチ幅は3.8 m、長さは 9.0 mである。遺構底面までの深さが3 mを超えることが予測されたため、安全帯を3段ないしは4段設けて掘り下げを行った。B区は遺構検出面での範囲確認である。**確認遺構**：A区からは南北方向および東西方向に走行する溝（堀）跡が、またB区からは土塁に沿うように走行する堀跡の範囲が確認された。縄張り図によると、蒼海城本郭（本丸）の北西部に構築された堀跡にあたる。**規模**：調査範囲の制限上、堀の立ち上がりを確認しきることはできなかったが、A区において東西方向に走行する堀跡の上端幅は少なくとも 9.0 mを超え、現道を挟んでB区土塁北面の法尻際にその立ち上がりが存在するとなればその堀幅は 15 mを超えるものとなろう。残存深度は最深でおよそ 3.10 mを測る。断面は逆台形状を呈する。**出土遺物**：埋没土中からかわらけ、石臼、宝篋印塔（笠部）の他、A区下層からは石臼（10）が出土した。この他、上層から近世～近代の陶磁器類が出土している。掲載資料は 10 点。**備考**：本遺構は蒼海城堀跡と想定される。A区上層断面から3期以上の改修が確認された。

W－５号溝（Fig. 6、PL. 3・5）

位置：X 187・188、Y 191 グリッド　主軸方位：N－97°－W。規模：長さ：[15.50] m。上端幅 0.67 ～ 0.85 m、下端幅 0.28 ～ 0.53 m。深さ：0.08 ～ 0.15 m。形状等：東西方向に走行。断面は皿状を呈する。重複：W－５→D－３。その他の遺構との新旧関係は不明。遺物出土状態：埋没土中から土師器・陶器細片が出土したが、細片であるため図示はしなかった。時期：埋没土等の観察から、中世以降と考えられる。備考：流水の痕跡は確認されなかったが、排水もしくは自然の流路跡か。

W－６号溝（Fig. 6、PL. 3・5・11）

位置：X 187・188、Y 190 ～ 195 グリッド　主軸方位：N－４°－W。規模：長さ：[17.35] m。上端幅 0.96 ～ 1.34 m、下端幅 0.67 ～ 1.02 m。深さ：0.04 ～ 0.10 m。形状等：南北方向に蛇行しながら走行する。北からD－５付近の範囲で 20㎝程度傾斜する。断面は皿状を呈する。重複：ＳＸ－２・3、D－９→W－６→ＳＸ－１、D－５。その他の遺構との新旧関係は不明。遺物出土状態：埋没土中から土師器（甕）、須恵器（坏・高台碗）の他、青磁碗（１）が出土した。時期：埋没土等の観察から、中世以降と考えられる。備考：W－１・２と規模や形状等が類似するため、同一の性格を持つ遺構と判断される。備考：本遺構は調査当初、ＳＸ－１以南の範囲を想定していなかったが、各遺構を再検討したところ、さらに南へ延びる痕跡が確認された。流水の痕跡は確認されなかったが、排水もしくは自然の流路跡か。

W－７号溝（Fig. 6、PL. 3・5）

位置：X 186～188、Y 191・192 グリッド　主軸方位：N－79°－W。規模：長さ：[7.75] m。上端幅 0.70～1.30 m、下端幅 0.34 ～ 0.96 m。深さ：0.04 ～ 0.12 m。形状等：東西方向に蛇行しながら走行し、東から西方へ 17㎝程度傾斜する。断面は皿状を呈する。重複：H－２→W－７→W－３・６。その他の遺構との新旧関係は不明。遺物出土状態：埋没土中から須恵器（高台碗）、かわらけが出土したが、細片であるため図示はしなかった。時期：埋没土等の観察から、中世以降と考えられる。備考：流水の痕跡は確認されなかったが、排水もしくは自然の流路跡か。

W－８号溝（Fig. 6、PL. 3・5）

位置：X 186・187、Y 192 グリッド　主軸方位：N－18°－W。規模：長さ：[1.83] m。上端幅 0.55 ～ 0.80 m、下端幅 0.24 ～ 0.32 m。深さ：0.08 m。形状等：北西－南東方向に走行する。断面は皿状を呈する。重複：W－８→T－１。その他の遺構との新旧関係は不明。遺物出土状態：埋没土中から出土しなかった。時期：埋没土等の観察から、中世以降と考えられる。備考：流水の痕跡は確認されなかったが、排水もしくは自然の流路跡か。

５、井戸

I－１号土坑（Fig. 6、PL. 3・5）

位置：X 188、Y 190 グリッド　規模：長軸 1.06 m、短径 0.97 m、深さ [1.90]+ α m。形状等：平面形態は楕円形を呈する。素掘り。重複：P－126・129・181 との新旧関係は不明。遺物：埋没土中から拳大～ 20㎝程度の礫が数点出土。時期：中世以降。備考：掘削深度が相当深いことが予想されたため、安全管理を考慮し、1.8 mを超えたところで掘削を中断した。

６、土坑

D－１号土坑（Fig. 6、PL. 3・6・11）

位置：X 187・188、Y 190・191 グリッド　規模：長軸 [1.72] m、短径 [1.54] m、深さ 6 ㎝。形状等：平面形態は不整形、断面形態は皿状を呈する。重複：H－１・D－９→D－１。遺物：埋没土中から青磁碗片１点。時期：中世以降。

D－2号土坑

欠番

D－3号土坑（Fig. 6、PL. 3・6・11）

位置：X 186・187、X 186・187 グリッド　主軸方向：N－3°－E。規模：長軸 2.92 m、短径 1.16 m、深さ 31㎝。形状等：平面形態は長方形、断面形態は箱型を呈する。重複：D－4→D－3。遺物：埋没土中から陶器（1）が出土。時期：中世以降。

D－4号土坑（Fig. 6、PL. 3・6）

位置：X 187、Y 191 グリッド　主軸方向：N－28°－W。規模：長軸 1.03 m、短径 0.90 m、深さ 52㎝。形状等：平面形態は方形、断面形態は箱型を呈する。重複：D－4→D－3。遺物：底面直上から内耳鍋が 1 点出土しているが、細片のため図示しなかった。時期：中世以降。

D－5号土坑（Fig. 6、PL. 3・6・11）

位置：X 187、Y 193 グリッド　主軸方向：N－1°－W。規模：長軸 [2.12] m、短径 1.18㎝、深さ 14㎝。形状等：平面形態は方形、断面形態は皿状を呈する。重複：W－6、P、SX－3→D－5・SX－1。遺物：埋没土中からかわらけ（1）が出土した。時期：土塁の盛土と類似した埋没土が堆積するため、中世以降と考えられる。

D－6号土坑（Fig. 6、PL. 3・6・11）

位置：X 187、Y 193 グリッド　主軸方向：N－11°－W。規模：長軸 1.06 m、短径 0.88 m、深さ 53㎝。形状等：平面形態は方形、断面形態は箱型を呈する。重複：T－1→D－6。ピットとの新旧関係は不明。遺物：なし。時期：中世以降。

D－7号土坑（Fig. 6、PL. 3・6・11）

位置：X 187、Y 194 グリッド　主軸方向：N－30°－W。規模：長軸 1.13 m、短径 0.75 m、深さ 33㎝。形状等：平面形態は方形、断面形態は箱型を呈する。重複：SX－3との新旧関係は不明。遺物：底面直上から人骨および古銭 6 枚が出土した。時期：中世。備考：土坑墓。

D－8号土坑（Fig. 6、PL. 3・7）

位置：X 188、Y 192・193 グリッド　主軸方向：N－23°－W。規模：長軸 [1.10] m、短径 [0.80] m、深さ 4 ㎝。形状等：平面形態は方形基調、断面形態は皿状を呈する。重複：東半側は調査区外。P－130 との新旧関係は不明。遺物：なし。時期：中世以降。

D－9号土坑（Fig. 6、PL. 3・7）

位置：X 187、Y 190・191 グリッド　規模：長軸 [1.17] m、短径 [1.01] m、深さ 6 ㎝。形状等：平面形態は不整形、断面形態は皿状を呈する。重複：D－9→W－6、D－1。遺物：なし。時期：古代以降。

D－10号土坑（Fig. 6、PL. 3・7）

位置：X 187、Y 194 グリッド　主軸方向：N－3°－E。規模：長軸 0.76 m、短径 0.57 m、深さ 38㎝。形状等：平面形態は方形、断面形態は箱型を呈する。重複：なし。遺物：底面直上から古銭 1 枚が出土。文字は判読不能であったため図示しなかった。時期：中世以降。備考：土坑墓の可能性が考えられる。

7．不明遺構

SX－1号不明遺構（Fig. 6、PL. 3・7・11）

位置：X 186 ～ 188、Y 193・194 グリッド　主軸方位：N－19°－E。規模：長さ [4.50] m。上端幅 2.80 ～ 3.47 m、下端幅 1.93 ～ 2.34 m。深さ：0.28 m。形状等：平面形態は不整形で、溝状遺構の形状に類似する。北東から南西方へ 25㎝ほど傾斜する。重複：W－6、D－5、SX－3→SX－1。遺物：埋没土中から土師器、かわらけ、青磁、陶器、磨石、緑泥片岩が出土した。掲載資料は 1 点。時期：中世以降。備考：埋没土は土塁築成土と類似する。

ＳＸ－２号不明遺構（Fig. 6、PL. 3・7・11）

位置：X 187、Y 190・191 グリッド　規模：長径 2.06 m、短径 1.51 m。深さ：0.11 m。形状等：平面形態は不整形で、断面形態は皿状を呈する。重複：W－6→ＳＸ－２。Ｐとの新旧関係は不明である。遺物：埋没土中から内耳鍋が出土したが、細片のため、図示しなかった。時期：中世以降。

ＳＸ－３号不明遺構（Fig. 6、PL. 3・7・11）

位置：X 187・188、Y 193・194 グリッド　長軸方位：N－44°－E。規模：長軸 [6.78] m、短軸 3.85 m。深さ：0.05 m。形状等：平面形態は不整形で、断面形態は皿状を呈する。重複：W－6、D－7、ＳＸ－1→ＳＸ－２。遺物：埋没土中から須恵器（高台椀）が出土したが、細片のため図示しなかった。時期：中世以降。

8、ピット（Fig. 5～7、PL. 3・4・7・11）

ピットは 188 基が確認されているが、国府への関連性を持つ遺構は認められず、ほとんどが中世以降に帰属するものと考えられる。各遺構の計測値については Tab. ２ピット一覧表（1）・Tab. ３ピット一覧表（2）に提示した。

Tab. 2　ピット一覧表（1）　単位：cm

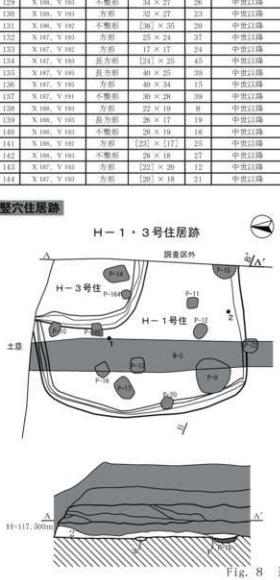
遺構名	位置	平面形	規模	深さ	時期・出見
P 1	X 188、Y 192・193	不整形	[60] × [17]	23	近世以降
P 2	X 188、Y 192・193	不整形	[97] × [64]	30	近世以降
P 3	X 188、Y 193	不整形	[61] × [25]	12	近世以降
P 4	X 188、Y 193	不整形	84 × [74]	16	近世以降
P 5	X 188、Y 191	楕円形	75 × [53]	17	近世以降
P 6	X 187・188、Y 190	不整形	40 × 35	25	中世以降
P 7	X 187、Y 192	長方形	39 × 31	5	中世以降
P 8	X 187、Y 191	楕円形	34 × 27	10	中世以降
P 9	X 188、Y 191	楕円形	56 × 55	54	敷石／中世以降
P 10	X 188、Y 190	不整形	23 × 22	13	中世以降
P 11	X 188、Y 191	方形	22 × 17	27	中世以降
P 12	X 188、Y 191	楕円形	25 × 18	7	古代以降
P 13	X 188、Y 190	方形	34 × 22	41	中世以降
P 14	X 189、Y 190	長方形	35 × 29	59	中世以降
P 15	X 188、Y 191	楕円形	38 × [21]	11	中世以降
P 16	X 188、Y 190	方形	21 × 20	41	中世以降
P 17	X 188、Y 190	長方形	36 × 25	67	中世以降
P 18	X 187・188、Y 190	方形	21 × 17	10	中世以降
P 19	X 187、Y 190	方形	17 × 15	5	中世以降
P 20	X 189、Y 190	方形	20 × 18	18	中世以降
P 21	X 187、Y 190	方形	28 × 26	45	中世以降
P 22	X 188、Y 191	方形	24 × 21	9	中世以降
P 23	X 187、Y 190	長方形	31 × 28	47	中世以降
P 24	X 187、Y 191	方形	30 × 29	42	中世以降
P 25	X 186・187、Y 191	方形	23 × 15	20	中世以降
P 26	X 187、Y 191	方形	23 × 19	22	中世以降
P 27	X 188、Y 191	方形	26 × 21	18	中世以降
P 28	X 187、Y 190	長方形	27 × 20	12	中世以降
P 29	X 187、Y 191	方形	24 × [23]	11	中世以降
P 30	X 187、Y 191	方形	20 × 18	37	中世以降
P 31	X 187、Y 190	方形	27 × 26	51	中世以降
P 32	X 187、Y 191	方形	33 × 29	45	中世以降
P 33	X 187、Y 191	方形	30 × 27	62	中世以降
P 34	X 187、Y 191	方形	28 × [21]	30	中世以降
P 35	X 188、Y 191	方形	27 × 26	35	敷石／中世以降
P 36	X 187、Y 191	方形	24 × 22	36	中世以降
P 37	X 187、Y 191	円形	32 × 30	27	中世以降
P 38	X 188、Y 191	方形	32 × 29	15	中世以降
P 39	X 188、Y 191	方形	24 × 22	22	中世以降
P 40	X 188、Y 191	方形	32 × 35	39	中世以降
P 41	X 188、Y 192	方形	31 × 27	23	中世以降
P 42	X 188、Y 192	方形	35 × 29	12	中世以降
P 43	X 188、Y 192	長方形	39 × 30	22	中世以降
P 44	X 188、Y 192	不整形	27 × 23	34	中世以降
P 45	X 188、Y 192	（方形）	33 × [11]	42	中世以降
P 46	X 188、Y 192	（方形）	32 × [20]	50	中世以降
P 47	X 188、Y 192	方形	26 × [25]	41	中世以降
P 48	X 188、Y 192	長方形	46 × [38]	36	中世以降
P 49	X 187、Y 191	長方形	23 × [21]	51	中世以降
P 50	X 187、Y 190	方形	30 × 28	61	中世以降
P 51	X 187・188、Y 191	長方形	30 × 26	9	中世以降
P 52	X 187、Y 191	方形	27 × 24	53	中世以降
P 53	X 187、Y 191	円形	50 × [47]	10	中世以降
P 54	X 187・188、Y 191・192	方形	20 × 18	13	中世以降
P 55	X 188、Y 192	（方形）	[46] × [38]	45	中世以降
P 56	X 188・187、Y 187	不整形	38 × 30	20	中世以降
P 57	X 188、Y 192	方形	21 × 19	34	中世以降
P 58	X 188、Y 192	長方形	26 × 19	31	中世以降
P 59	X 188、Y 191	方形	[30] × [30]	75	中世以降
P 60	X 187、Y 190	不整形	28 × 23	31	中世以降
P 61	X 187、Y 190	方形	21 × 17	5	中世以降
P 62	X 188、Y 191	方形	[29] × [28]	30	中世以降
P 63	X 187、Y 191	方形	25 × 23	15	中世以降
P 64	X 187、Y 192	方形	19 × 18	14	中世以降
P 65	X 187、Y 192	方形	32 × 30	82	中世以降
P 66	X 188、Y 191	長方形	37 × 31	24	中世以降
P 67	X 188、Y 191	方形	[21] × 20	40	中世以降
P 68	X 188、Y 192	方形	27 × 22	50	中世以降
P 69	X 187、Y 192	方形	26 × 24	49	中世以降
P 70	X 187、Y 192	方形	27 × 27	14	中世以降
P 71	X 187、Y 191	長方形	26 × 22	63	中世以降
P 72	X 187、Y 191	方形	20 × [12]	33	中世以降
P 73	X 187、Y 192	方形	[30] × 30	35	中世以降
P 74	X 187・188、Y 192	方形	[32] × [25]	45	中世以降
P 75	X 187、Y 192	方形	16 × 15	67	中世以降
P 76	X 187、Y 192	円形	33 × 32	35	古代以降
P 77	X 187、Y 192	円形	22 × [18]	8	古代以降
P 78	X 187、Y 192	長方形	63 × 55	11	中世以降
P 79	X 187、Y 192	長方形	[41] × 20	24	中世以降
P 80	X 187、Y 192	方形	[21] × [20]	61	中世以降
P 81	X 187、Y 192	方形	[20] × 20	58	中世以降
P 82	X 187、Y 192	方形	22 × 21	49	中世以降
P 83	X 187、Y 192	方形	[23] × 20	17	中世以降
P 84	X 187、Y 191	方形	27 × 25	34	中世以降
P 85	X 187、Y 191	方形	31 × 29	66	中世以降
P 86	X 187、Y 191	方形	[25] × 30	52	中世以降
P 87	X 187、Y 191	長方形	[40] × 32	59	中世以降
P 88	X 188、Y 191	長方形	32 × 26	16	中世以降
P 89	X 188、Y 191	方形	22 × 20	7	中世以降
P 90	X 188、Y 192	方形	23 × 19	12	中世以降
P 91	X 187、Y 192	長方形	[27] × 23	37	中世以降
P 92	X 187、Y 191	長方形	35 × 25	14	中世以降
P 93	X 187、Y 191	方形	25 × 23	40	中世以降
P 94	X 188、Y 191	方形	27 × [24]	52	中世以降
P 95	X 187、Y 192	長方形	[25] × 22	45	中世以降
P 96	X 187、Y 192	長方形	[37] × 23	38	中世以降
P 97	X 187、Y 190	方形	26 × 24	24	中世以降
P 98	X 187、Y 191	方形	[23] × 23	20	中世以降
P 99	X 188、Y 192	方形	25 × [18]	11	中世以降
P 100	X 188、Y 192	方形	23 × 22	36	中世以降

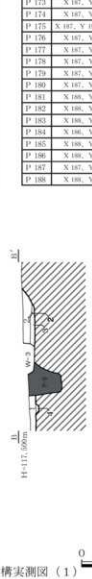
Tab. 3　ピット一覧表（2）　単位：cm

遺構名	位置	平面形	規模	深さ	時期・所見
P 101	X 187、Y 192	方形	23 × 21	14	中世以降
P 102	X 187、Y 192	長方形	34 × 23	31	中世以降
P 103	X 187、Y 192	方形	24 × 22	36	中世以降
P 104	X 187、Y 192	不整形	27 × 24	83	中世以降
P 105	X 187、Y 192	方形	28 × 27	73	中世以降
P 106	X 187、Y 192	長方形	36 × 22	82	中世以降
P 107	X 187、Y 192	方形	23 × 23	35	中世以降
P 108	X 187、Y 193	不整形	26 × 25	52	中世以降
P 109	X 187、Y 193	方形	28 × 22	14	中世以降
P 110	X 187、Y 193	方形	26 × 26	71	中世以降
P 111	X 187、Y 193	長方形	[32] × 23	43	中世以降
P 112	X 188、Y 193	方形	23 × 17	34	中世以降
P 113	X 187、Y 193	方形基調	22 × [20]	37	中世以降
P 114	X 186、Y 193	方形	25 × 24	41	中世以降
P 115	X 187、Y 193	不整形	[23] × 22	11	中世以降
P 116	X 187、Y 193	方形	23 × 22	19	中世以降
P 117	X 187、Y 193	方形	[15] × 20	34	中世以降
P 118	X 187、Y 193	方形	23 × 22	56	中世以降
P 119	X 187、Y 193	方形	26 × 25	66	中世以降
P 120	X 187、Y 193	長方形	30 × 22	65	中世以降
P 121	X 187、Y 192	方形基調	36 × 30	29	中世以降
P 122	X 187、Y 192	方形	32 × [26]	24	中世以降
P 123	X 187、Y 193	方形	20 × 20	21	中世以降
P 124	X 188、Y 193	方形	28 × 25	41	中世以降
P 125	X 188、Y 193	長方形	[36] × 27	44	中世以降
P 126	X 188、Y 193	方形基調	[20] × [20]	32	中世以降
P 127	X 187、Y 193	方形	[26] × 24	54	中世以降
P 128	X 187、Y 193	方形	25 × 24	42	中世以降
P 129	X 188、Y 193	不整形	34 × 27	26	中世以降
P 130	X 188、Y 193	方形	32 × 27	23	中世以降
P 131	X 186、Y 192	不整形	[38] × 35	20	中世以降
P 132	X 187、Y 193	方形	25 × 24	37	中世以降
P 133	X 187、Y 192	方形	17 × 17	24	中世以降
P 134	X 187、Y 193	長方形	[24] × 25	45	中世以降
P 135	X 187、Y 193	長方形	40 × 25	39	中世以降
P 136	X 187、Y 193	方形	40 × 34	15	中世以降
P 137	X 187、Y 191	不整形	30 × 28	39	中世以降
P 138	X 188、Y 193	方形	22 × 19	8	中世以降
P 139	X 188、Y 193	長方形	26 × 17	19	中世以降
P 140	X 188、Y 193	不整形	28 × 19	18	中世以降
P 141	X 188、Y 192	方形	[23] × [17]	25	中世以降
P 142	X 188、Y 193	不整形	28 × 18	27	中世以降
P 143	X 187、Y 193	方形	[22] × 20	12	中世以降
P 144	X 187、Y 193	方形	[20] × 18	21	中世以降

遺構名	位置	平面形	規模	深さ	時期・所見
P 145	X 187、Y 194	方形	22 × 20	37	中世以降
P 146	X 187、Y 194	方形	19 × 15	46	中世以降
P 147	X 187、Y 193	長方形	24 × 21	18	中世以降
P 148	X 187、Y 192	方形	23 × 19	17	中世以降
P 149	X 187、Y 193	方形	28 × [22]	21	中世以降
P 150	X 187、Y 192	方形	28 × 27	60	中世以降
P 151	X 187、Y 192・193	方形	28 × 26	60	中世以降
P 152	X 187、Y 193	方形	25 × 22	54	中世以降
P 153	X 187、Y 193	方形	22 × 21	49	中世以降
P 154	X 187、Y 194	方形	20 × 18	36	中世以降
P 155	X 187、Y 194	方形	19 × 17	14	中世以降
P 156	X 188、Y 194	方形	35 × 31	14	中世以降
P 157	X 187、Y 194	方形	19 × 17	18	中世以降
P 158	X 187、Y 194・195	方形	24 × 22	20	中世以降
P 159	X 188、Y 195	方形	34 × 32	21	中世以降
P 160	X 187、Y 193	方形	[24] × 20	23	中世以降
P 161	X 187、Y 192	方形	[22] × 20	49	中世以降
P 162	X 187、Y 193	長方形	33 × 20	27	中世以降
P 163	X 188、Y 193	方形	29 × 27	22	中世以降
P 164	X 188、Y 190	方形	15 × 13	29	中世以降
P 165	X 188、Y 190	方形	20 × 18	18	中世以降
P 166	X 187、Y 190	方形	21 × 20	30	中世以降
P 167	X 187、Y 190	方形	17 × 16	12	中世以降
P 168	X 187、Y 191	長方形	17 × 13	9	中世以降
P 169	X 187、Y 191	方形	14 × 11	17	中世以降
P 170	X 188、Y 192	長方形	23 × 14	25	中世以降
P 171	X 188、Y 192	方形	20 × 19	13	中世以降
P 172	X 186・187、Y 192	方形	16 × 15	23	中世以降
P 173	X 187、Y 192	不整形	18 × 10	6	中世以降
P 174	X 187、Y 192	不整形	17 × 14	7	中世以降
P 175	X 187、Y 192・193	円形	23 × 20	10	中世以降
P 176	X 187、Y 192	（長方形）	[23] × [12]	26	中世以降
P 177	X 187、Y 192	長方形	18 × 11	9	中世以降
P 178	X 187、Y 192	長方形	22 × 11	14	中世以降
P 179	X 187、Y 193	長方形	23 × 16	19	中世以降
P 180	X 187、Y 193	方形基調	[20] × [14]	20	中世以降
P 181	X 188、Y 193	方形	23 × 20	16	中世以降
P 182	X 188、Y 192	方形	[42] × [15]	10	中世以降
P 183	X 188、Y 192	方形	16 × 15	9	中世以降
P 184	X 186、Y 191	方形	[23] × [23]	22	中世以降
P 185	X 188、Y 191	（方形）	24 × [15]	3	中世以降
P 186	X 188、Y 192	長方形	[37] × 29	12	中世以降
P 187	X 187、Y 192	方形基調	[25] × 26	28	中世以降
P 188	X 188、Y 192	長方形	[27] × [23]	23	中世以降

竪穴住居跡





H－1・3号住居跡　土層説明（A-A'）

1．暗灰色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～2.0 cm中量、炭化物微量。しまり・粘性やや弱い。
2．暗褐色土　総社砂層少量、褐色粘質。しまり・粘性やや弱い。
3．暗褐色土　総社砂層少量、白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

H－1号住居跡　土層説明（B-B'）

1．暗褐色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～3.0 cm・炭化物少量。しまりやや弱い。粘性ややあり。
2．暗褐色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～3.0 cm多量、炭化物少量。しまり・粘性やや弱い。
3．暗褐色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～1.0 cm・炭化物少量。しまり・粘性やや弱い。
4．暗褐色土　総社砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm多量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

0　(1：60)　2 m

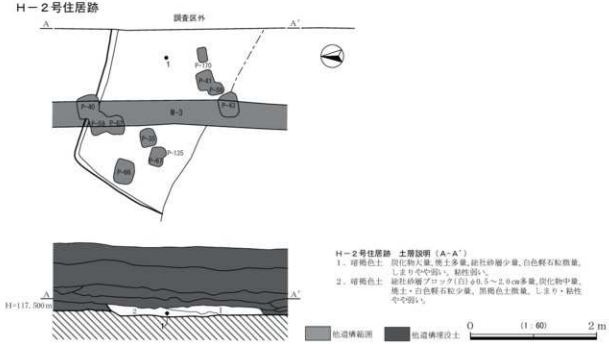
他遺構範囲

他遺構現況土

Fig. 8　遺構実測図（1）

竪穴住居跡

Ｈ－２号住居跡



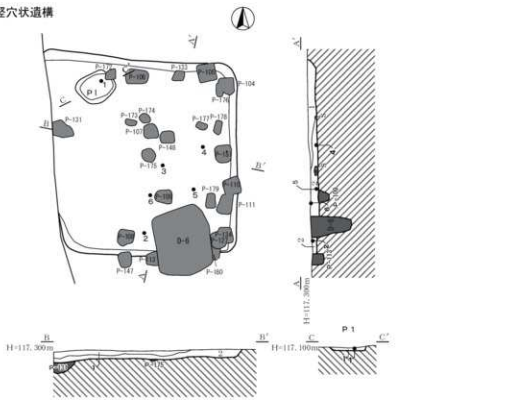
Ｈ－２号住居跡　土層説明（A-A'）

1．暗褐色土　炭化物大量、焼土多量、縄文砂層少量、白色軽石粒微量、しまりやや弱い、粘性弱い。

2．暗褐色土　縄文砂層ブロック(白) φ0.5～2.0cm多量、炭化物中量、焼土・白色軽石粒少量、黒褐色土微量、しまり・粘性やや弱い。

竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構



Ｔ－１号竪穴状遺構　土層説明（A-A'・B-B'）

1．暗褐色土　縄文砂層ブロック（白）φ0.5～3.0cm中量、白色軽石粒少量、しまりややあり、粘性やや弱い。

2．暗褐色土　縄文砂層ブロック(白) φ0.5～2.0cm・白色軽石粒少量、しまり・粘性やや弱い。

Ｔ－１号竪穴状遺構Ｐ１　土層説明（C-C'）

1．暗褐色土　縄文砂層ブロック(白・黄) φ0.5～2.0cm・炭化物多量、しまり・粘性ややあり。

Fig. 9　遺構実測図（2）

A区　W－4号溝 北壁トレンチ（A－A′）

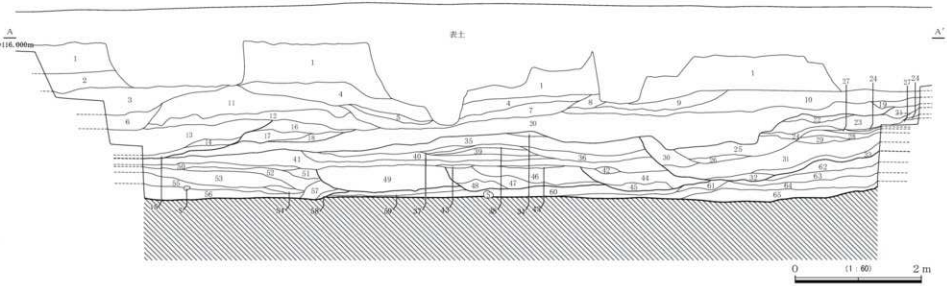


Fig.10　遺構実測図（3）

A区　W－4号溝北壁トレンチ　土層説明（A－A′）

1．褐灰色土　白色粒少量、鉄分沈着、やや砂質、しまりあり、粘性ややあり。

2．褐灰色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm・白色粒少量、鉄分沈着、やや砂質、しまりあり。粘性ややあり。

3．褐灰色土　総杜砂層ブロック（白）φ0.5～5.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm微量、鉄分沈着、やや砂質、しまりあり。粘性ややあり。

4．灰褐色土　暗色粒少量、白色粒石φ0.5～8.0 cm・黒褐色土微量、鉄分沈着、しまりややあり。粘性やや弱い。

5．灰 色 土　総 杜 砂 層 ブ ロ ッ ク（白・黄）φ0.5～3.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～5.0cm少量、砂質土、しまり・粘性弱い。

6．灰褐色土　総杜砂層(白)φ0.5～10.0cm多量、黒褐色土φ0.5～2.0cm少量、しまり・粘性ややあり。

7．灰褐色土　総杜砂層ブロックφ0.5～5.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm・橙色粒少量、白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

8．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量、黒褐色土φ0.5～2.0 cm少量、しまりややあり。粘性やや弱い。

9．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0cm少量、しまりややあり。粘性やや弱い。

10．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～5.0 cm少量、しまり・粘性やや弱い。

11．暗灰色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0 cm・黄褐色粒少量、やや砂質、しまりややあり。粘性やや弱い。

12．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm少量、しまりややあり。粘性やや弱い。

13．灰褐色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～10.0cm多量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm少量、しまり・粘性ややあり。

14．褐灰色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～1.0cm少量、白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

15．灰褐色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～5.0cm多量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0 cm中量、しまりややあり。粘性やや弱い。

16．褐灰色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～10.0cm多量、黒褐色土ブロックφ0.5～10.0 cm少量、しまりあり。粘性ややあり。

17．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm少量、黒褐色土・白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

18．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm少量、しまりややあり。粘性やや弱い。

19．褐灰色土　砂礫φ0.5～3.0 cm中量、総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～10.0cm 少量、白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

20．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～5.0 cm少量、しまり・粘性やや弱い。

21．褐灰色土　黒褐色土ブロックφ0.5～3.0 cm多量、総杜砂層ブロック（白）φ0.5～5.0cm 中量、砂礫微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

22．褐灰色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm少量、白色粒石粒微量、しまり・粘性ややあり。

23．灰 色 土　砂質、しまり・粘性弱い。

24．黒褐色土　砂少量、しまり・粘性ややあり。

25．灰 色 土　砂質、しまり・粘性弱い。

26．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm中量、白色粒石粒少量、しまり・粘性ややあり。

27．灰褐色土　総杜砂層ブロック(黄)φ0.5～5.0cm中量、白色粒石粒微量、しまり・粘性ややあり。

28．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量、白色粒石粒・橙色粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

29．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量、白色粒石粒・橙色粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

30．灰褐色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm中量、白色粒石粒少量、しまりややあり。粘性やや弱い。

31．褐灰色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm中量、白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

32．褐灰色土　総杜砂層少量、白色粒石粒微量、しまり・粘性やや弱い。

33．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0 cm・白色粒石粒少量、しまり・粘性やや弱い。

34．褐灰色土　総杜砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm少量、黒褐色土・白色粒石粒微量、しまり・粘性ややあり。

35．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～2.0cm少量、白色粒石粒微量、しまりややあり。粘性やや弱い。

36．灰褐色土　総杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm少量、白色粒石粒微量、しまり・粘性ややあり。

37. 褐灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

38. 灰褐色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm中量、黒褐色土・白色粒石粒少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

39. 褐灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm中量、黒褐色土、白色粒石粒微量。鉄分沈着。しまりややあり。粘性やや弱い。

40. 灰褐色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm少量、黒褐色土・白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

41. 灰褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0cm少量、白色粒石粒微量、やや砂質。しまり・粘性やや弱い。

42. 褐灰色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0cm中量、黒褐色土少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

43. 灰 色 土　縦杜砂層・黒褐色土少量、砂質土。しまり・粘性弱い。

44. 暗灰色土　灰色砂中量、縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm少量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm・白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

44. 暗灰色土　灰色砂中量、縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm少量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm・白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

45. 暗灰色土　灰色砂多量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm中量、縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm・白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

46. 灰 色 土　縦杜砂層・黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm少量、白色粒石粒微量。鉄分沈着。しまり・粘性弱い。

47. 暗灰色土　黒褐色土ブロックφ0.5～5.0 cm多量、縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm中量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

48. 褐灰色土　黒褐色土ブロックφ0.5～3.0 cm中量、縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～5.0cm少量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

49. 灰 色 土　縦杜砂層・黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm少量、白色粒石粒微量。鉄分沈着。しまり・粘性弱い。

50. 灰 色 土　黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm・白色粒石粒微量。しまり・粘性弱い。

51. 暗灰色土　黒褐色土多量、縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm中量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

52. 灰 色 土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm・白色粒石粒少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

53. 灰 色 土　縦杜砂層と灰黄褐色砂層が互層堆積。しまり・粘性弱い。

54. 灰 色 土　白色粒石粒微量、シルト質。鉄分沈着。しまり・粘性弱い。

55. 灰 色 土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～2.0cm少量、白色粒石粒微量。シルト質。しまり・粘性弱い。

56. 灰 色 土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm少量、白色粒石粒微量。砂質土。しまり・粘性弱い。

57. 灰 色 土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm少量、黒褐色土ブロックφ0.5～2.0 cm・白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

58. 暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～2.0cm少量、白色粒石粒微量。鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

59. 暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm少量、鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

60. 暗灰色土　縦杜砂層少量。鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

61. 暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～5.0cm中量、しまり・粘性やや弱い。

62. 灰黄褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～5.0cm・黒褐色土少量。しまり・粘性やや弱い。

63. 灰黄褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～5.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm中量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

64. 褐灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～2.0cm・黒褐色土ブロックφ0.5～2.0cm少量、砂質土。鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

65. 褐灰色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm中量、白色粒石粒少量。鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

A区　W-4号溝 東壁トレンチ（B-B'）

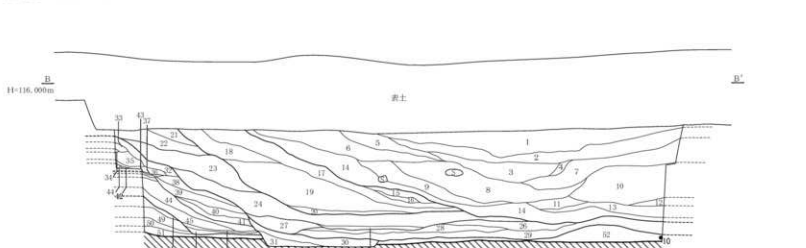


Fig.11　遺構実測図（4）

A区　W－4号清東壁トレンチ　土層説明（B-B'）

1．褐灰色土　総社砂層・黒褐色土・橙色粒少量。しまり・粘性ややあり。

2．褐灰色土　総社砂層・黒褐色土ブロック0.5～1.0cm・砂礫少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

3．褐灰色土　総社砂層・黒褐色土ブロック0.5～1.0cm少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

4．褐灰色土　総社砂層・黒褐色土微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

5．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～2.0cm少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

6．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm多量。泥炭層ブロック0.5～5.0cm中量。しまりややあり。粘性やや弱い。

7．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～3.0cm中量。黒褐色土ブロック0.1～5.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

8．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～2.0cm少量。白色軽石粒・礫0.2～5.0cm微量。しまり・粘性ややあり。

9．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm。黒褐色土ブロック0.5～3.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

10．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm多量。黒褐色土0.5～3.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

11．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

12．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm少量。黒褐色ブロック0.5～5.0cm・白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

13．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm・黒褐色土ブロック0.5～5.0cm中量。白色軽石粒微量。砂分泥者。しまり・粘性ややあり。

14．灰褐色土　総社砂層・黒褐色土少量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

15．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm・黒褐色土ブロック0.5～2.0cm少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

16．灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～8.0cm多量。白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

17．褐灰色土　総社砂層・黒褐色土ブロック0.5～5.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

18．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm・黒褐色土ブロック0.5～5.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

19．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～3.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

20．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm・黒褐色土ブロック0.5～2.0cm少量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

21．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～3.0cm中量。砂質ブロック0.5～5.0cm少量。しまり・粘性ややあり。

22．褐灰色土　黒褐色土ブロック0.5～3.0cm多量。総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm中量。砂礫微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

23．褐灰色土　総社砂層ブロック0.5～5.0cm・礫0.1～3.0cm・白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

24．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～2.0cm少量。黒褐色土ブロック0.5cm・白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

25．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～2.0cm少量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

26．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

27．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～3.0cm中量。総社砂層ブロック（黄）0.5cm少量。白色軽石粒微量。砂分泥者。しまり・粘性やや弱い。

28．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm少量。黒褐色土・白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

29．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm中量。総社砂層ブロック（黄）0.5cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

30．灰褐色土　総社砂層ブロック（白）0.5～2.0cm少量。白色軽石粒微量。しまり・粘性ややあり。

31．灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5cm少量。白色軽石粒微量。砂質土。しまりやや弱い。粘性あり。

32．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～5.0cm少量。しまり・粘性やや弱い。

33．褐灰色土　砂礫0.5～3.0cm中量。総社砂層ブロック（白・黄）0.5～10.0cm少量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

34．褐灰色土　黒褐色土ブロック0.5～3.0cm多量。総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm中量。砂礫微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

35．灰色土　砂礫。しまり・粘性弱い。

36．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）中量。黒褐色土少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

37．黒褐色土　砂礫少量。しまり・粘性ややあり。

38．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm多量。黒褐色土少量。ややシルト質。しまりややあり。粘性やや弱い。

39．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm・礫0.5～3.0cm中量。しまりややあり。粘性弱い。

40．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～1.0cm中量。黒褐色土少量。しまり・粘性ややあり。

41．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm多量。砂分泥者。しまり・粘性やや弱い。

42．褐灰色土　総社砂層微量。しまり・粘性やや弱い。

43．褐灰色土　黒褐色土少量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

44．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm中量。白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

45．灰褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～3.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～3.0cm・白色軽石粒少量。しまり・粘性やや弱い。

46．灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～3.0cm少量。黒褐色土ブロック0.5～3.0cm・白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

47．暗灰色土　総社砂層ブロック（白）0.5～5.0cm中量。黒褐色土少量。しまり・粘性やや弱い。

48．灰黄褐色土　総社砂層ブロック（黄）0.5～5.0cm・黒褐色土少量。しまり・粘性やや弱い。

49．灰黄褐色土　総社砂層ブロック（黄）0.5～5.0cm・黒褐色土ブロック0.5～3.0cm中量。白色軽石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

50．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～2.0cm・黒褐色土ブロック0.5～2.0cm少量。砂質土。砂分泥者。しまり・粘性やや弱い。

51．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm中量。白色軽石粒少量。砂分泥者。しまり・粘性やや弱い。

52．暗灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）0.5～5.0cm中量。黒褐色土ブロック0.5～2.0cm・白色軽石粒少量。砂分泥者。しまり・粘性やや弱い。

B区　東壁　土層断面（A-A'）

B区　東壁　土層説明（A-A'）

1．暗褐色土　黒褐色土ブロックφ0.5～2.0cm・白色粒少量、褐色粒微量。しまり・粘性ややあり。

Ⅱ．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～3.0cm多量、黒褐色土中量、総社砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0cm少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

1．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量、白色粒石粒中量、黒褐色土少量。しまり・粘性弱い。

2．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～8.0cm大量、総社砂層(黄)ブロックφ0.5～3.0cm中量、褐色粒少量。しまり・粘性やや弱い。

3．褐灰色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～3.0cm多量、黄色粒・黒褐色土・白色粒石粒微量。しまり・粘性ややあり。

4．褐灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm・灰化物中量、黄色粒少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

5．灰褐色土　総社砂層ブロック(黄)φ0.5～3.0cm大量、黒褐色土ブロックφ1.0～2.0cm・黄色粒少量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

6．暗褐色土　総社砂層（白）多量、黄色粒少量、黒褐色土微量。しまり・粘性ややあり。

7．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm中量、総社砂層（黄）少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

8．褐灰色土　総社砂層（白・黄）中量、黒褐色土少量、白色粒石粒微量。しまり・粘性ややあり。

9．暗褐色土　総社砂層(白・黄)・黄色粒・白色粒石粒微量。しまり・粘性ややあり。

10．暗褐色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～5.0cm大量、総社砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0cm・黒褐色土少量、白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

11．褐灰色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～8.0cm多量、総社砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0cm・礫φ1.0～5.0cm中量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

12．暗褐色土　総社砂層（白）多量、黄色粒少量、黒褐色土微量。しまり・粘性ややあり。

13．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～5.0cm中量、黒褐色土少量、白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

14．灰色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～10.0cm大量、黒褐色土ブロックφ0.5～5.0cm少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

15．暗褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～8.0cm多量、黒褐色土ブロックφ0.5～3.0cm少量。しまり・粘性やや弱い。

16．灰色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～3.0cm・黒褐色土・灰化物微量。砂質土。しまり・粘性弱い。

17．灰褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～5.0cm少量。しまり・粘性やや弱い。

18．灰色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～5.0cm多量。しまり・粘性やや弱い。

19．暗褐色土　総社砂層ブロック(黄)φ0.5～2.0cm少量。総社砂層（白）・黄色粒・白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

20．暗褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量。白色粒石粒・灰化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

21．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm少量。黄色粒・白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

22．褐灰色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm中量。黄色粒・白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

23．暗褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0cm多量。白色粒石粒少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

24．暗褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）φ0.5～8.0cm多量。白色粒石粒少量。しまり強い。粘性やや弱い。

25．暗褐色土　総社砂層（白・黄）多量。黒褐色土・白色粒石粒少量。しまり強い。

26．暗褐色土　灰化物大量、他土多量。総社砂層少量。白色粒石粒微量。しまりやや弱い。粘性弱い。

27．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm多量。灰化物中量、他土・白色粒石粒少量。黒褐色土微量。しまり・粘性やや弱い。

28．暗褐色土　総社砂層ブロック（白）φ0.5～2.0cm・褐色粒少量、灰化物微量。しまり・粘性ややあり。

29．暗褐色土　総社砂層ブロック(黄)φ0.5～5.0cm大量。白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

30．暗褐色土　総社砂層ブロック(黄)φ0.5～2.0cm中量。灰化物微量。しまり・粘性やや弱い。

31．暗褐色土　総社砂層ブロック(白)φ0.5～2.0cm中量。総社砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0cm・黒褐色粒・灰化物微量。しまり・粘性ややあり。

32．暗褐色土　総社砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0cm中量。灰化物微量。しまり・粘性ややあり。

33．暗褐色土　総社砂層少量。褐色粒微量。しまり・粘性やや弱い。

34．暗褐色土　総社砂層少量。白色粒石粒微量。しまり・粘性やや弱い。

35．暗褐色土　総社砂層ブロック（白・黄）中量。白色粒石粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

B区 土層 断面図（B-B'・C-C'）

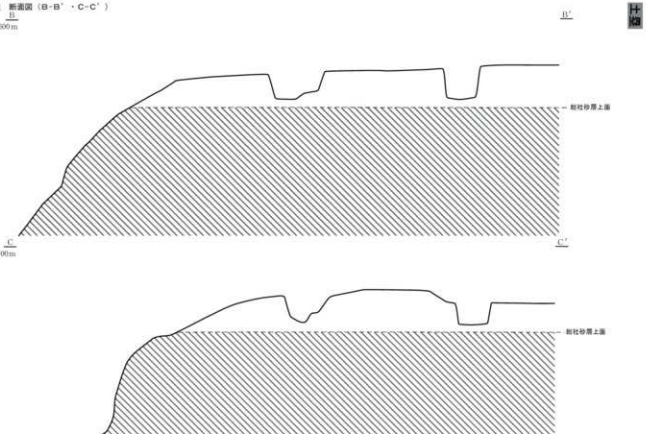


Fig.13　遺構実測図（6）

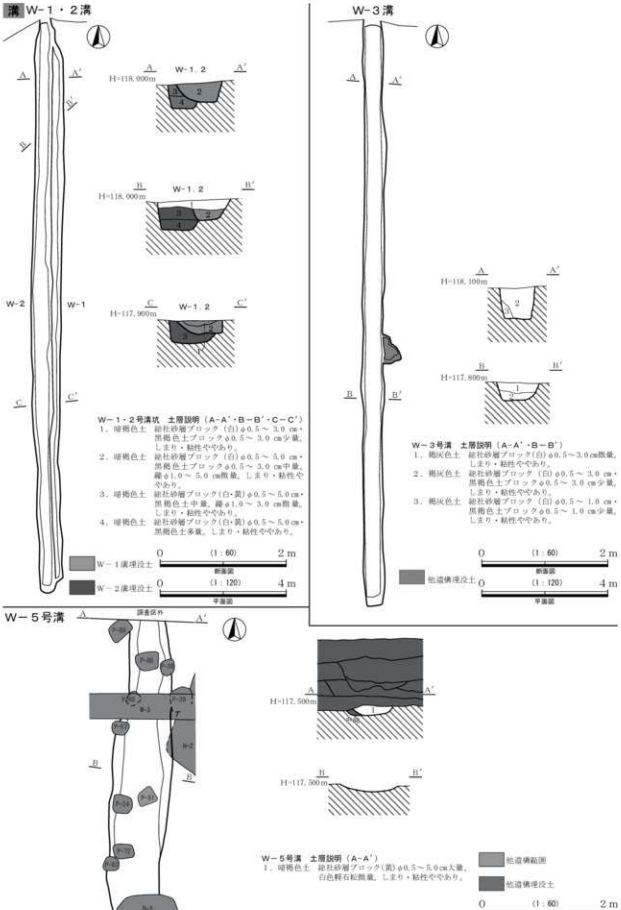


Fig.14 遺構実測図（7）

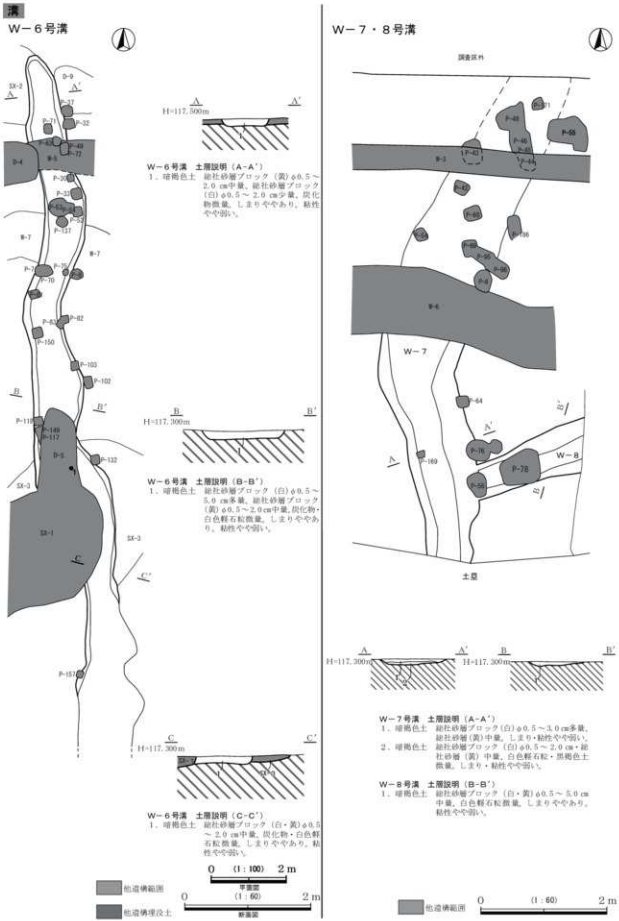
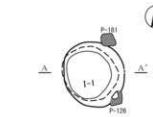
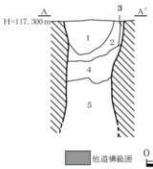


Fig. 15　遺構実測図（8）

井戸

Ⅰ－1号井戸





1－1号井戸　土層説明（A-A'）

1．灰色土　縦杜砂層を主体とする。黒褐色土ブロックφ0.2～2.0 cm少量。しまり・粘性やや弱い。

2．灰色土　縦杜砂層を主体とする。黒褐色土ブロックφ0.2～5.0 cm中量。白色軽石微量。しまり・粘性やや弱い。

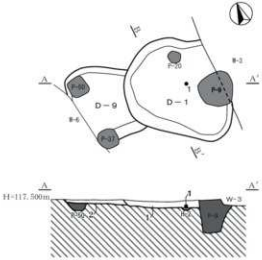
3．暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.2～10.0 cm・黒褐色土ブロックφ0.2～10.0 cm多量。しまり・粘性やや弱い。

4．暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.2～8.0 cm多量。黒褐色土ブロックφ0.2～3.0 cm中量。白色軽石微量。しまりやや弱い。粘性ややあり。

5．暗灰色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.2～10.0 cm多量。黒褐色土ブロックφ0.2～5.0 cm中量。縦杜砂層ブロック（黄）φ0.2～2.0 cm少量。しまり・粘性やや弱い。

土坑

D－1・9号土坑



D－1・9号土坑　土層説明（A-A'）

1．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.2～3.0 cm少量。黄褐色粒・炭化物粒微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

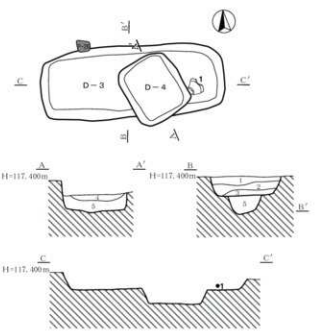
2．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.2～3.0 cm多量。縦杜砂層ブロック（白）φ0.2～2.0 cm中量。炭化物粒微量。しまり・粘性やや弱い。

他遺構範囲

他遺構埋設土

0　(1：60)　2 m

D－3・4号土坑



D－3・4号土坑　土層説明（A-A'）

1．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～2.0 cm中量。縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～2.0 cm少量。炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

2．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm多量。縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～2.0 cm中量。炭化物微量。しまり・粘性やや弱い。

3．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm多量。炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

4．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（白・黄）φ0.5～5.0 cm多量。黒褐色土中量。炭化物少量。しまりややあり。粘性やや弱い。

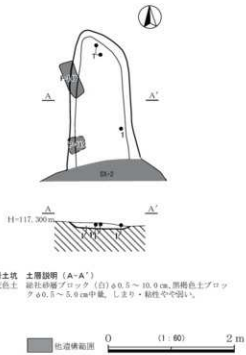
5．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～5.0 cm多量。縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～3.0 cm少量。黒褐色粒微量。しまり・粘性やややあり。

他遺構範囲　0　(1：60)　2 m

Fig.16　遺構実測図（9）

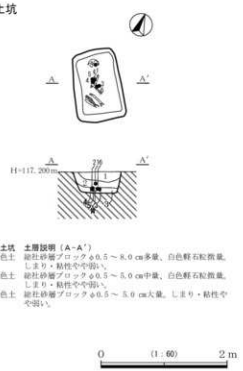
土坑

D－5号土坑



D－6号土坑

D－7号土坑



D－8号土坑

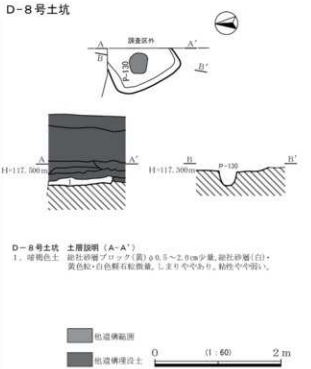
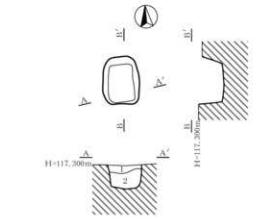


Fig.17　遺構実測図（10）

土坑

D-10号土坑

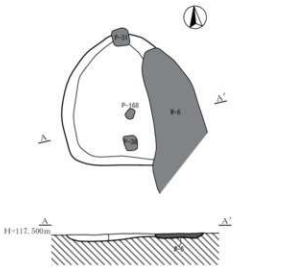


D－10号土坑　土層説明（A-A'）
1．暗褐色土　縄社砂層ブロック（白・黄）φ0.2～5.0 cm多量、白色軽石粒微量。しまりややあり。粘性弱い。
2．暗褐色土　縄社砂層（白・黄）少量。しまり・粘性弱い。

0　(1：60)　2 m

不明遺構

ＳＸ－２号不明遺構



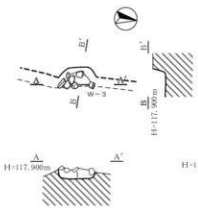
ＳＸ－２号不明遺構　土層説明（A-A'）
1．暗褐色土　縄社砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm多量、炭化物微量。しまりややあり。粘性やや弱い。

他遺構範囲
他遺構埋設土

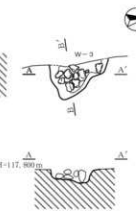
0　(1：60)　2 m

ピット

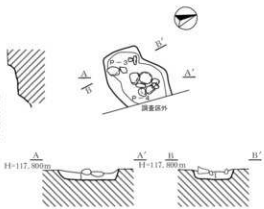
P－1号ピット



P－2号ピット



P－3・4号ピット



P－1号ピット　土層説明（A-A'）
1．暗褐色土　縄社砂層ブロック（白）φ0.2～3.0 cm少量。炭化物・白色粒微量。しまりやや弱い。粘性ややあり。

P－3号ピット　土層説明（A-A'）
1．暗褐色土　縄社砂層ブロック（白）φ0.2～3.0 cm少量。炭化物・白色粒微量。しまりやや弱い。粘性ややあり。

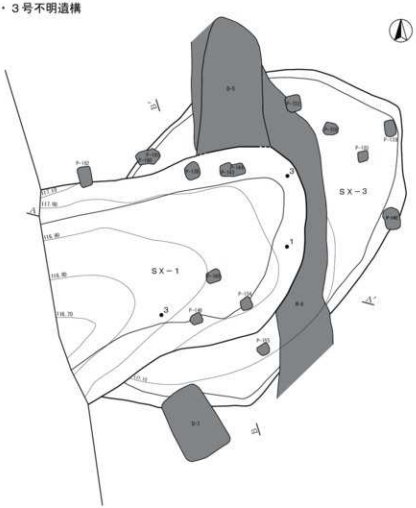
P－4号ピット　土層説明（B-B'）
1．暗褐色土　縄社砂層ブロック（白）φ0.2～3.0 cm少量。炭化物・白色粒微量。しまりやや弱い。粘性ややあり。

0　(1：60)　2 m

Fig. 18　遺構実測図（11）

不明遺構

ＳＸ－１・３号不明遺構



ＳＸ－１・３号不明遺構　土層説明（Ａ-Ａ′・Ｂ－Ｂ′）

1．灰 色 土　縦杜砂層主体。砂質土。黒褐色土ブロックφ0.5～10.0 cm中量。鉄分沈着。しまり・粘性やや弱い。

2．黒褐色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～10.0 cm中量。しまり・粘性やや弱い。

3．灰 色 土　縦杜砂層土体。砂質土。縦杜砂層粘質土ブロックφ0.5～5.0cm少量。しまり・粘性弱い。

4．褐灰色土　縦杜砂層少量。褐色粒微量。しまり・粘性やや弱い。

5．褐灰色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～2.0 cm中量。しまり・粘性ややあり。

6．暗褐色土　縦杜砂層ブロック（白）φ0.5～3.0 cm中量。縦杜砂層ブロック（黄）φ0.5～3.0 cm・白色鮮石粒微量。しまりあり。粘性ややあり。

他遺構範囲

他遺構埋没土

0　(1：60)　2 m

Fig. 19　遺構実測図（12）

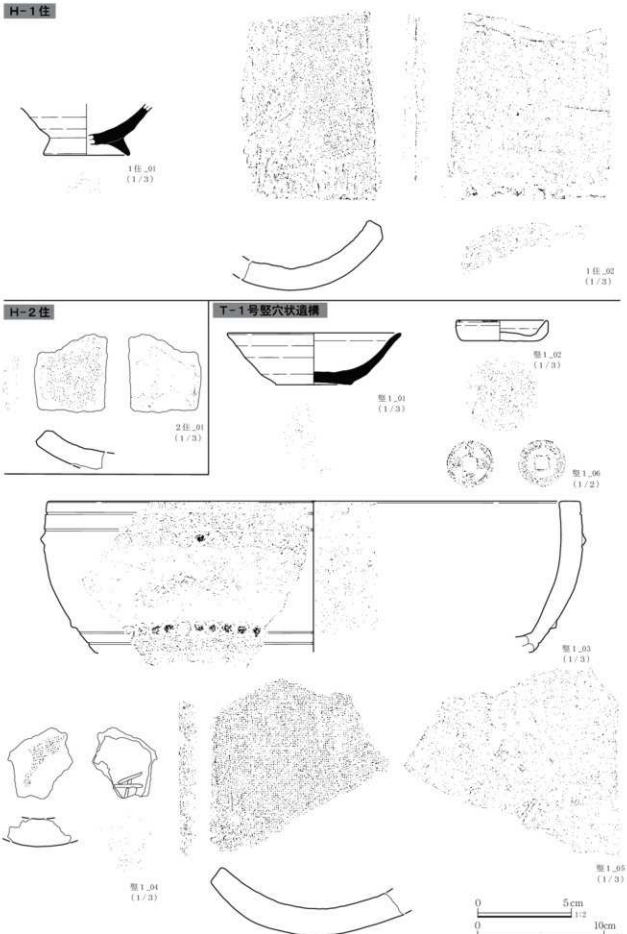
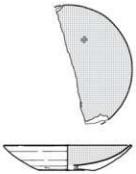


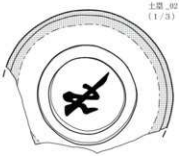
Fig.20　遺物実測図（1）

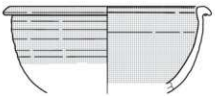
土器



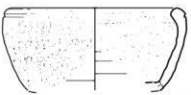
土器_01
(1/3)

土器_02
(1/3)

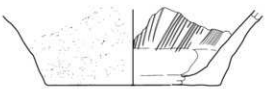




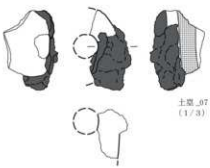
土器_03
(1/3)



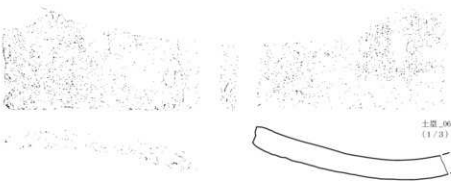
土器_04
(1/3)



土器_05
(1/3)



土器_07
(1/3)



土器_06
(1/3)

0 10cm
1/3

Fig. 21　遺物実測図（2）

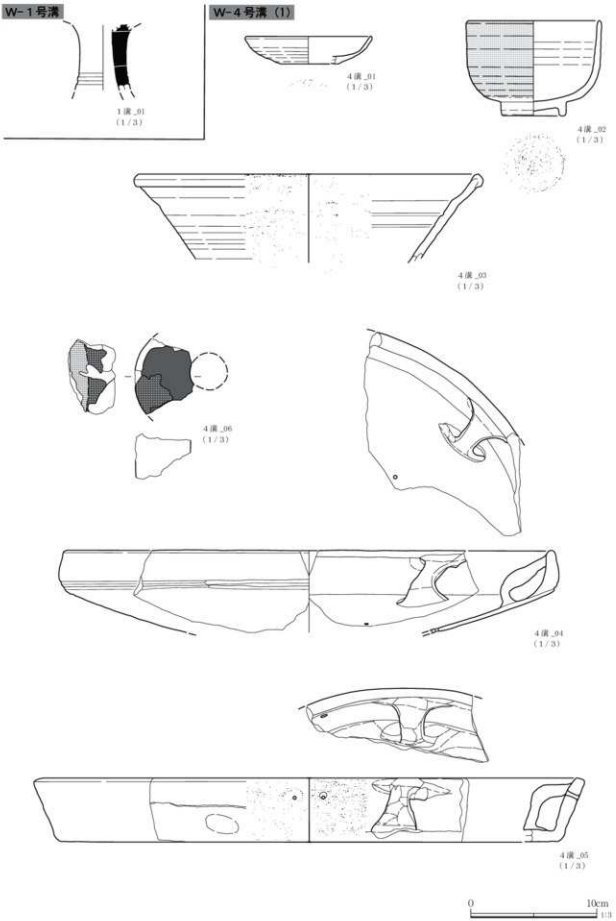


Fig. 22　遺物実測図（3）

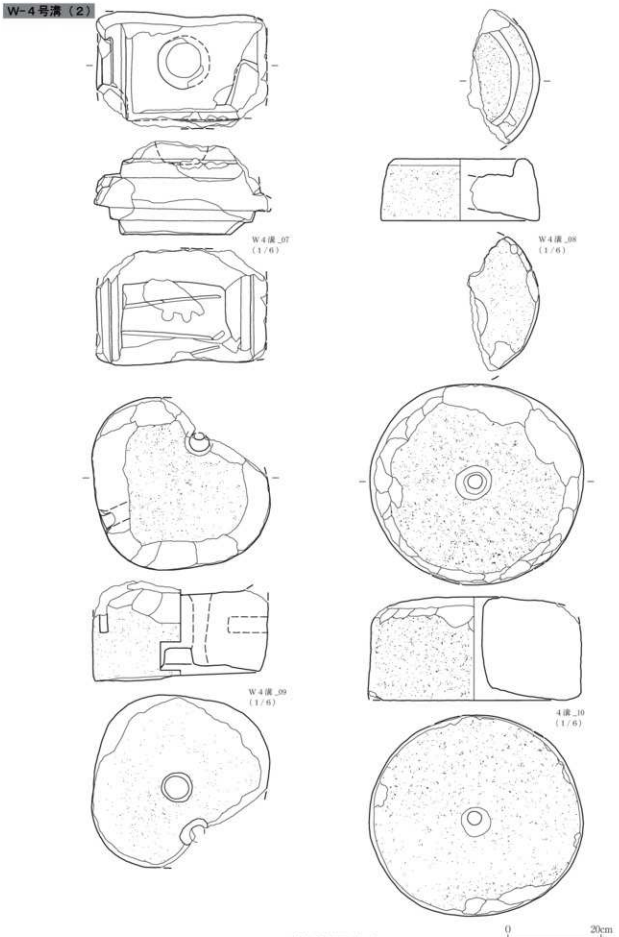


Fig. 23　遺物実測図（4）

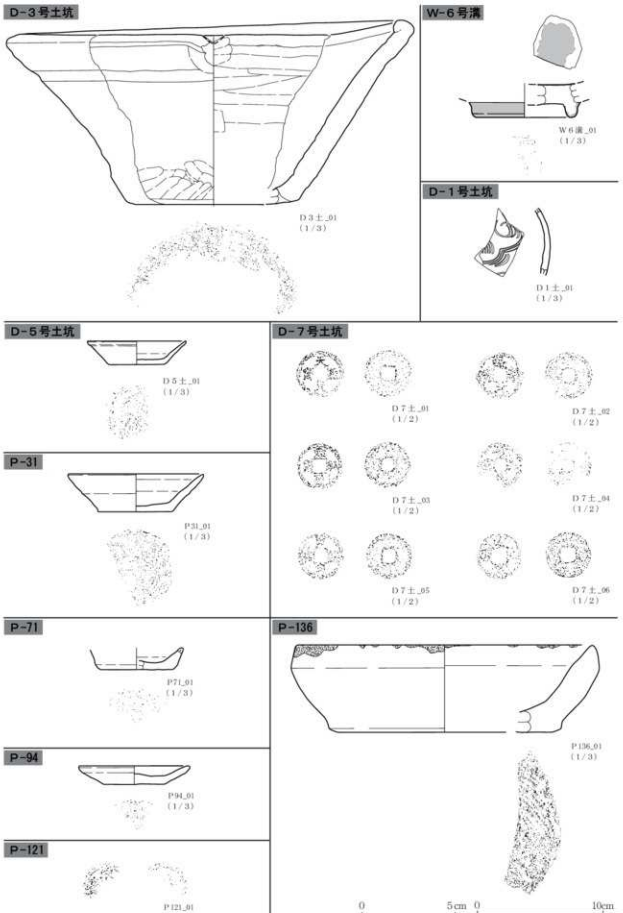


Fig.24　遺物実測図（5）

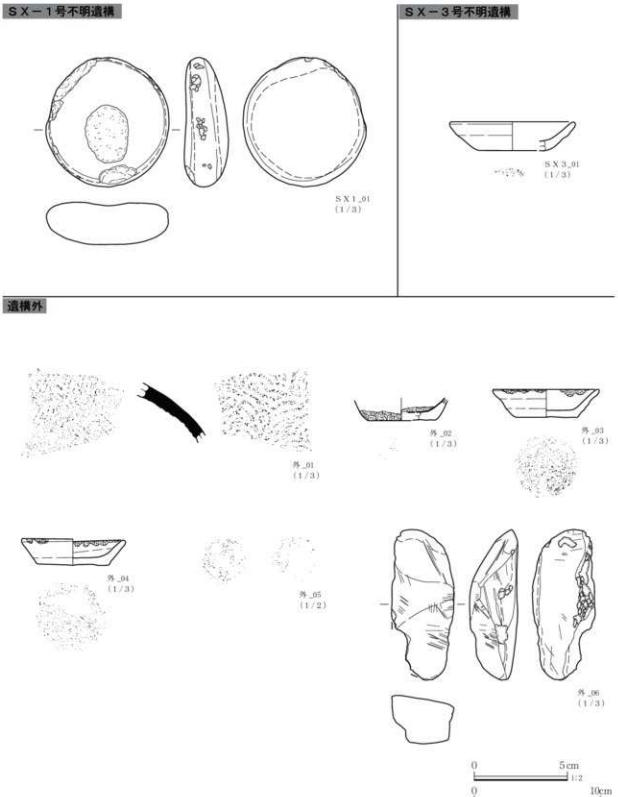


Fig.25　遺物実測図（6）

Tab. 4　出土遺物観察表（1）

H－1号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 高台付椀	底径　(6.8) 器高　[4.0]	①酸化焔　②にぶい褐色 ③角閃石・黒色粒・白色粒 ④体部下位～底部 1/4	外面：轆轤整形，底部ナデ調整。 内面：轆轤整形。	覆土	
2	瓦 平瓦	厚さ　1.8	①還元焔　②黄灰色 ③石英・黒色粒・白色粒 ④広端部右側片	凹面：布目圧痕。端部篠ナデ。 凸面：横位篠ナデ。 側面：篠ナデ。	覆土	

H－2号住居跡

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	瓦 平瓦	厚さ　1.6	①酸化焔気味　②黄灰色 ③石英・白色粒 ④破片	凹面：布目圧痕。端部篠ナデ。 凸面：斜位・縦位篠ナデ。 側面：篠ナデ。	覆土	

T－1号竪穴状遺構

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 (13.7) 底径　(6.0) 器高　4.1	①酸化焔　②にぶい橙色　③チャート・黒色粒・白色粒・赤褐色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：轆轤整形。	覆土	
2	土師質土器 皿	口径　7.2 底径　5.8 器高　1.7	①酸化焔　②にぶい黄橙色 ③黒色鉱物・白色粒・チャート ④完形	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り後無調整。 内面：轆轤整形。	覆土	口唇部油煙付着。
3	軟質陶器 火鉢	口径 (13.7) 底径　(6.0) 器高　4.1	①普通　②にぶい橙色　③チャート・黒色粒・白色粒・赤褐色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。上位及び下位に回線２条、菊花文・珠文。胴部中位菱形文。 内面：ナデ。	覆土	
4	瓦 平瓦	厚さ　2.2	①還元焔　②灰色　③白色粒・石英 ④破片	凹面：布目圧痕。 凸面：篠ナデ後刻書「千」。	覆土	
5	瓦 平瓦	厚さ　2.2	①還元焔　②暗灰色 ③白色石・白色粒・石英 ④破片	凹面：布目圧痕。 凸面：篠ナデ後刻書「千」もしくは「手」か。	覆土	
番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴			出土層位	備考
6	古銭	長さ 2.5　幅　2.3　厚さ　0.1　重さ　2.67，篆書，「皇宋通宝」初鋳 1036 年，北宋銭。			覆土	

土壁

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 皿	口径 (10.2) 底径 (4.1) 器高　2.0	②素－灰白色，釉－灰釉 ④1/2	外面：轆轤整形，無釉。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
2	陶器 皿	口径 (13.6) 底径　8.0 器高　2.4	②素－浅黄色，釉－灰釉 ④3/4	外面:轆轤整形，削り高台。高台部内墨書「中」か。 内面:轆轤整形，見込み目痕２ヵ所，鉄絵，草花文。	覆土一括	益子焼。
3	陶器 鉢	口径 (16.4) 器高　[6.9]	②素－灰白、釉－灰釉 ④口縁～体部上位片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	瀬戸美濃系。
4	瓦質土器 火鉢	口径 (14.4) 器高　[6.5]	①普通　②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・雲母 ④口縁～体部 1/8	外面：轆轤整形，縦線文。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
5	陶器 擂鉢	底径 (13.7) 器高　[6.0]	②素－浅黄橙色、釉－錆釉 ③石英・白色石 ④体部下位～底部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。擂目 2.0 cm / 8 本以上。	覆土一括	瀬戸美濃系。
6	瓦 平瓦	厚さ　1.8	①還元焔　②灰色 ③黒色粒・赤褐色粒・石英・チャート ④広端部左側片	凹面：布目圧痕後部分的に横位篠ナデ。端部篠ナデ。 凸面：横位篠ナデ。 側面：篠ナデ。	覆土一括	
番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴			出土層位	備考
7	羽口	直径　[6.0]　重さ　46.33，先端部内径：(2.0)。胎土　白色粒・角閃石・石英。羽口先端部片。			覆土一括	

W－1号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	須恵器 （蓋坏）	器高　[5.1]	①還元焔　②灰色 ③白色粒・石英・黒色粒　④脚部片	外面：ナデ後２条の沈線。 内面：ナデ。	覆土一括	

Tab. 5　出土遺物観察表（2）

W－4号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 皿	口径 (10.0) 底径 (4.5) 器高　2.2	①堅緻 ②素一灰白色、釉一錆釉 ④1/2	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	B区一括	瀬戸美濃系。
2	陶器 碗	口径 (10.8) 底径　5.1 器高　7.6	①普通 ②胎土一灰白色、釉一飴釉 ④1/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	B区一括	瀬戸美濃系。
3	陶器 擂鉢	口径 (27.7) 器高　[7.0]	①普通　②胎土一黄白色、釉一錆釉 ③白色粒　④口縁部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	B区一括	瀬戸美濃系。
4	陶器 焙烙	口径 (39.0) 器高　[6.6]	①普通　②橙色 ③赤褐色粒・白色粒 ④1/8	外面：轆轤整形。底部型造り。 内面：轆轤整形。	B区一括	
5	陶器 焙烙	口径 (43.6) 器高　[3.0] 底径 (39.4)	①普通　②にぶい黄橙色 ③角閃石・白色粒 ④1/10	外面：轆轤整形。底部型造り。 内面：轆轤整形。	B区一括	外面煤付着 在地系。
番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴			出土層位	備考
6	羽口	直径 (9.0)　重さ　78.40。胎土　白色粒・石英・角閃石。			B区一括	
7	石製品 宝篋印塔	長さ　18.5　幅　27.05　厚さ　[14.7]　重さ　5,100。笠部。4/5。粗粒安山岩製。			B区一括	
8	石製品 石臼	長さ (21.2)　幅　[11.5]　厚さ　9.8　重さ　1,935。上臼。1/5。粗粒安山岩製。			B区一括	
9	石製品 石臼	直径　27.5　高さ　28.4　厚さ　[15.9]　重さ　1,460。上臼。4/5。粗粒安山岩製。			A区覆土	
10	石製品 石臼	長さ　32.0　幅　34.1　厚さ　16.7　重さ　2,840。下臼。ほぼ完形。粗粒安山岩製。			A区一括	

W－6号溝

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	青磁 皿	底径　(8.0) 器高　[2.2]	②灰白色 ④底部～高台部片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土	

D－1号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	青白磁 （梅瓶）	－	②明緑灰 ④破片	外面：渦文。 内面：轆轤整形。	覆土	

D－3号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	軟質陶器 鉢	口径 (32.3) 器高　14.6 底径 (13.8)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。口縁部ヨコナデ、体部斜位篩ナデ、底部篩ナデ。 内面：轆轤整形。口縁部ヨコナデ、体部横位篩ナデ。	覆土	

D－5号土坑

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径　(7.9) 器高　2.9 底径　(4.5)	①普通　②にぶい橙色 ③褐色粒・チャート・白色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土	口唇部、僅かに煤付着。

D－7号土坑

番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　3.56。「天聖元宝」。初鋳1023年。北宋銭。	覆土	
2	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　3.31。「熙寧元宝」か。初鋳1068年。北宋銭。	覆土	
3	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　3.70。篆書。「元祐通宝」か。初鋳1086年。北宋銭。	覆土	
4	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　2.78。「景徳元宝」か。初鋳1004年。北宋銭。	覆土	
5	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　3.13。	覆土	
6	古銭	長さ 2.5　幅　2.5　厚さ　0.1　重さ　1.98。	覆土	

Tab. 6　出土遺物観察表（3）

Ｐ－31 号ピット

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径 (10.8) 器高 3.0 底径 (6.0)	①普通 ②橙色 ③白色粒・褐色粒・黒色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土	

Ｐ－71 号ピット

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径 (10.8) 器高 3.0 底径 (6.0)	①普通 ②にぶい黄橙色 ③砂粒・角閃石・チャート ④1/4	外面：轆轤整形。底部磨滅。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

Ｐ－136 号ピット

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径 (7.8) 器高 2.3 底径 (6.2)	①普通 ②にぶい橙色 ③白色粒・角閃石 ④1/4	外面：轆轤整形。底部（右）回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	口唇部煤付着。

Ｐ－94 号ピット

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径 (8.8) 器高 1.5 底径 (4.8)	①普通 ②にぶい黄橙色 ③白色石・角閃石・石英 ④1/5	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

Ｐ－121 号ピット

番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	古銭	長さ (2.5) 幅 (2.5) 厚さ 0.1 重さ 1.34,「宋通元宝」,北宋銭か。	覆土	

ＳＸ－１号不明遺構

番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	石器 磨石	長さ 10.2 幅 9.8 厚さ 3.5 重さ 531.15, 石材：閃緑岩, 自然礫を素材とし、表裏面に摩耗が認められる。表面は平滑し、光沢を帯びる。裏面中央には敲き・摩痕による浅い窪みあり。周縁の一部には敲打による剥離痕や窪みが見られる。	覆土	

ＳＸ－３号不明遺構

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備　考
1	土師質土器 皿	口径 (10.0) 底径 (5.4) 器高 2.3	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③角閃石・白色粒・石英・赤褐色粒 ④1/6	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

遺構外出土遺物

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 （甕・壺）	－	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④胴部片	外面：当て具痕。 内面：並行タタキ後横位ナデ。	Ｔ－１覆土	
2	土師質土器 皿	底径 (5.4) 器高 [2.8]	①普通 ②にぶい黄橙色 ③黒色粒・白色粒 ④体部下半～底部 1/5	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	Ｈ－１覆土	体部上半煤付着。
3	土師質土器 皿	口径 (8.5) 底径 4.9 器高 2.2	①普通 ②浅黄橙色 ③黒色鉱物・白色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	Ｂ区２面	口縁部煤付着
4	土師質土器 皿	口径 (13.1) 器高 [3.2]	①普通 ②にぶい黄橙色 ③黒色粒・白色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	Ｂ区２面	口縁部煤付着
番号	器　種	法　量（cm・g）／成・整形技法の特徴			出土層位	備考
5	古銭	長さ 2.3 幅 2.4 厚さ 0.1 重さ 3.38,「嘉定通宝」,折二, 南「元」, 南宋銭。			Ｂ区表土	
6	石製品 砥石	長さ 11.9 幅 5.0 厚さ 3.8 重さ 214.33, 石材：流紋岩。割礫を素材とする。４面使用。被熱による剥離・変色が認められる。一部欠損。				

Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（126）出土の人骨

大妻女子大学博物館　橋崎修一郎

はじめに

元総社蒼海遺跡群 126 は、群馬県前橋市元総社に所在する。毛野考古学研究所による発掘調査が、2017（平成 29）年 10 月～同年 11 月まで実施された。本遺跡の D-7 号土坑から、人骨が検出されたので以下に報告する。

D－7 号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況：長軸 113cm・短軸 75cm・深さ 36cm の規模の隅丸長方形土坑より出土している。

（2）副葬品:副葬品は、銭貨 6 点が検出されている。ただし、3 点は不読。これらより、時代は中世と推定される。

（3）人骨の出土部位:人骨の残存状態はあまり良くないが、全身骨格が出土している。なお、これは、群馬県における中世人骨の出土状況と同様である。

（4）被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置より、被葬者は、頭位を北西で顔面部を西にして右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。この埋葬状態は、群馬県における中世人骨の埋葬状態と同様である。

（5）被葬者の個体数：出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は 1 個体であると推定される。

（6）被葬者の性別：出土人骨の内、頭蓋骨片の骨壁は比較的薄く、四肢骨片は比較的小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

写真 1．D－7 号土坑人骨出土状況（南→）

（7）被葬者の死亡年齢：残念ながら、被葬者の死亡年齢推定の指標となる歯は 1 本も検出されていない。頭蓋骨片および四肢骨からは、成人であると推定される。このような場合、歯がすべて生前脱落して無歯顎となった可能性もあるが、無歯顎の状態の上下顎骨は確認されなかった。したがって、成人か老齢であると推定される。

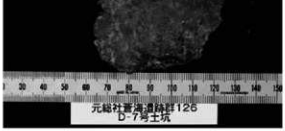


写真 2．右頭頂骨片

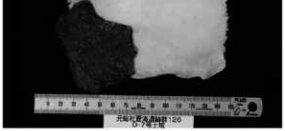


写真 3．右頭頂骨部位

まとめ

群馬県前橋市元総社の元総社蒼海遺跡群 126 の D-7 号土坑から、中世人骨 1 体が出土した。被葬者は、成人か老齢の女性 1 個体であると推定された。

Ⅶ　まとめ

元総社蒼海遺跡群（126）では調査成果として、古代の集落跡、蒼海城関連遺構、近世以降の耕作痕等が確認された。ここでは若干の補説をし、まとめとしたい。

近世以降

B区１面土塁上面から、溝状遺構３条およびピット５基が確認された。いずれも土塁築成土を掘り込んで構築されている。溝状遺構は規則的な形状や規模から、近世以降の畠等の耕作痕と考えられ、近接する元総社蒼海遺跡群（124）でも同様の範囲が部分的に確認されている。これに破壊されるようにＰ－１～５が確認されたが、このうちＰ－１～４は平面形態が不整形であり、底面直上から30㎝大の安山岩（これらの礫に加工痕等は見受けられなかったが、一部で被熱したような痕跡が見られた）が複数出土した。出土した礫は人為的に敷いたというよりは投げ込んだ様な検出状態から、耕作（畠）等に伴う、礫の廃棄坑と推測される。

中世以降

蒼海城関連の遺構となる土塁および堀跡の他、土塁築成土下から竪穴状遺構、溝状遺構、井戸、土坑（土坑墓含む）、ピット群が確認された。ここでは、蒼海城の土塁および堀、ピット群について補説をしたいと思う。

１．蒼海城の土塁および堀跡

まず、蒼海城関連の遺構としては、「本丸」とされる郭の北西部分にあたる土塁が現存し、これを囲繞する堀跡がＡ区トレンチおよびＢ区１面から確認された（Ｗ－４号溝）。Fig.28に提示したが、「Ａ区Ｗ－４号溝 東壁トレンチ 土層断面」では「本丸」の北堀にあたる堀跡が東西方向に走行する。構築時期は大きく分けて２段階（以後、新段階・古段階と称する）あり、更に新段階ではＤ→Ｃ→Ｂ→Ａ期の４期、古段階ではＢ→Ａ期の２期以上あることが想定され、「本丸」周辺では改変が繰り返し行われたことが窺い知れる。この堀跡は土層断面の観察や断面形態から、本調査地の南に隣接する元総社蒼海遺跡群（124）のＷ－３号溝（堀）と同一遺構と考えられるが、同堀でみられたような人為的な埋め戻しは見受けられない。

これに対し、「Ａ区Ｗ-4 号溝 北壁トレンチ 土層断面」では、南北方向に走行する溝跡が複数確認された。まず、東半側では新段階（北壁－Ｂ期）と古段階（北壁－Ｅ→Ｄ→Ｃ期）の２期にわたる溝跡が確認され、断面形態はやや丸みのある逆台形を呈する。新段階の溝は上端幅［4.43］ｍ、残存深度は 1.23 ｍを測る。埋没土は東→西方へ傾斜するように堆積している。古段階の溝との間には整地層がみられるが、これは蒼海城改修に伴う造成であろうか。古段階の溝は少なくとも３期がみられ、掘り返されるごとに東方へ２ｍ程度移行している。規模や断面形状には一定の規格性が見られ、上端幅は［2.55］ｍ以上を測る。整地層からの残存深度はおよそ 0.4 ｍである。溝底は地下水位が一番低い時期のボーダーラインであろうか、その標高値は 113.55 ｍ前後である。埋没土は、西方の沼地の影響あるいは地下水脈の関係か、長期間湛水していたというよりは洪水的な要因による水成堆積をしたものとみられる。また、「Ａ区Ｗ－４号溝 北壁トレンチ 土層断面」の西側では、南北方向に走行する溝（北壁－Ａ期）及び堀（北壁－Ｆ期）が確認された。前者の溝は上端幅 [2.60] ｍで、残存深度は 0.63 ｍを測り、断面形態はやや不整な逆台形状を呈する。後者の堀跡は上端幅 [3.35] ｍで、整地層からの残存深度は 0.6 ｍを測り、断面形態は逆台形状と考えられる。Ａ区から確認された溝（堀）では最古段階にあたる。構築時期は、層位等から、Ａ・Ｂ期が近世以降、Ｃ～Ｆ期は中世以降と想定される。

本調査地の調査成果及び周辺の状況から、「Ａ区Ｗ－４号溝 東壁トレンチ 土層断面」から確認されたＦ期の堀跡は蒼海城関連遺構と判断される。縄張り図と照合すると、堀（北壁－Ｆ期）は「本丸」及び「御霊神社」の北側に区画された郭とを画す堀にあたる可能性が考えられる。構築時期は郭及び土塁を囲繞するＷ－４号溝の新段階以前と想定されるが、同堀の古段階と同時期になる可能性は否定できない。その他の溝は不詳だが、少なくともこの３期以上にわたる堀及び溝の構築には大きな整地事業を伴う改変が行われていることや同規模の溝跡が

連綿と構築されていることが確認された。

２．ピット群

本調査地から188基が確認された。平面形態や埋没土にＡｓ－Ｂ（浅間Ｂ軽石：1108年）が含まれるものが主体であることから、およそ当該期に構築されたものと考えられる（一部、古代の可能性あり）。一部で規則的な柱穴の配置がみられたことから、建物跡６棟を試案した。計測値は以下のとおりである。

Ｂ１：２間×２間＋南張出。軸方位 Ｎ－４°－Ｗ。梁行 2.50 m、桁行 5.60 m。張出梁行 1.90 m。　Ｂ２：２間×２間＋南張出。軸方位 Ｎ－12°－Ｗ。梁行 1.85 m、桁行 5.75 m。張出梁行 1.80 m。Ｂ３：２間×２間。軸方位 Ｎ－３°－Ｗ。梁行 4.30 m、桁行 3.70 m。Ｂ４：１間×１間。軸方位 Ｎ－15°－Ｗ。梁行 1.50 m、桁行 1.50 m。Ｂ５：２間×（１間）。軸方位 Ｎ－10°－Ｗ。梁行 2.80 m、桁行 2.50 m。Ｂ６：２間×１間以上。軸方位 Ｎ－37°－Ｗ。梁行（1.45）m、桁行 3.00 m。

古代以降

竪穴住居跡が３軒確認された。その分布に偏在性は見られない。帰属時期は、中世以降の各遺構に破壊あるいは削平されていることや、確認された範囲が狭小であるため不詳な点は多いが、出土遺物等の観察からいずれも平安時代と考えられる。なお、Ｈ－３号住居跡は、壁周溝及び一部の検出された床面範囲から遺構名を付称したが、狭小な検出範囲であるため検討を要する。本調査地は上野国府の推定域内に含まれるものの、その関連遺構を含め、平安時代以前の遺構を明確に捉えることはできなかったが、10世紀以降には集落域として土地利用がなされていることが確認された。

今回、本調査地から得られた成果により、普海城本丸周辺の縄張り及び建物群を捉えようとしたが、筆者の力量不足により不明点は未だ多いため、ここでは「本丸」周辺における堀の変遷想定図およびのその一案として提示させていただく留まり、今後増加するであろう発掘調査の成果によってさらなる検証がなされることを期待する。

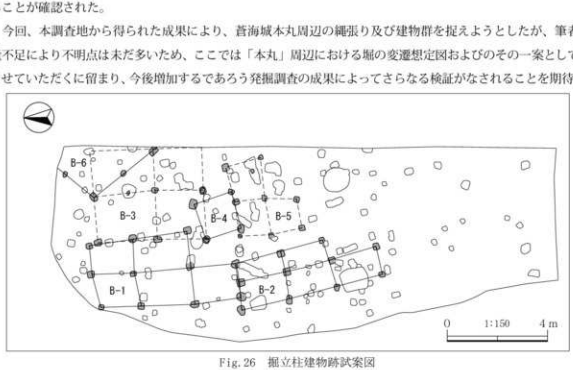


Fig. 26　掘立柱建物跡試案図

【引用・参考文献】
山崎　一　1987 『群馬県古城塁址の研究　上巻』 群馬県文化事業振興会
群馬県教育委員会　1988 『群馬県の中世城館』
山田誠司　2010 『元総社普海遺跡群（29）』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
荻野博巳　2011 『元総社普海遺跡群（36）』 前橋市教育委員会
山田誠司　2013 『元総社普海遺跡群（44・45）』 前橋市教育委員会
相澤正信　2013 『元総社普海遺跡群（47）』 前橋市教育委員会
山田誠司　2014 『元総社普海遺跡群（57）（58）（29）』 前橋市教育委員会
中村岳彦　2016 『元総社普海遺跡群（65）』 前橋市教育委員会
飯森康弘　2016 『群馬の城30選　戦国への誘い』 上毛新聞社
原　眞　2000 「中世城館跡に見る阪築土塁」 『研究紀要18』 財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

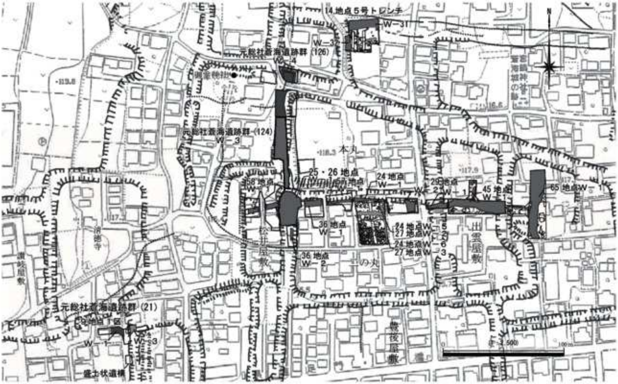
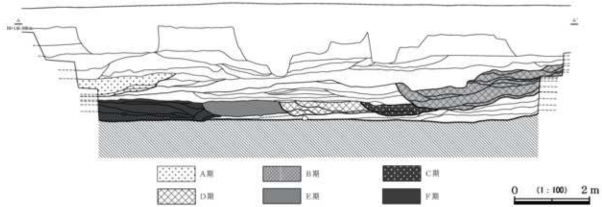


Fig. 27　本調査地と周辺蒼海城縄張想定図（日沖 2010 を加筆修正）

A区　W-4号溝 北壁トレンチ （A-A'）



A区　W-4号溝 東壁トレンチ （B-B'）

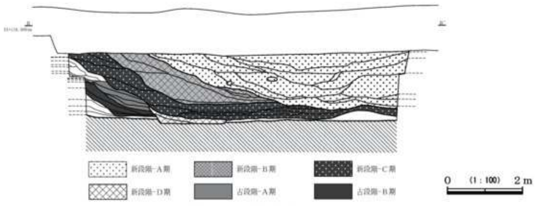


Fig. 28　蒼海城堀跡変遷想定図

写　真　図　版

A区全景（上が東）

A区全景（上が東）

A区北壁土層断面（南から）

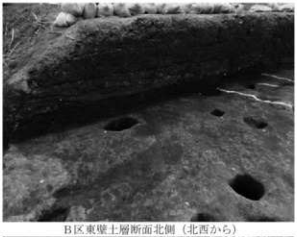
A区東壁土層断面（北西から）

作業風景

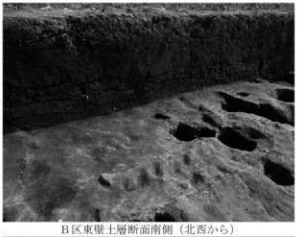
調査区１面全景（上が東）

調査区１面全景（上が東）

Ｂ区２面全景（上が北）



Ｂ区東壁土層断面北側（北西から）



Ｂ区東壁土層断面南側（北西から）

Ｐ－１～４礫出土状態（南西から）

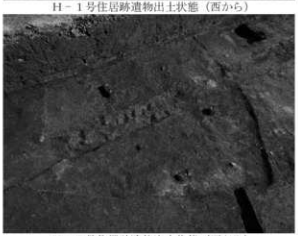
Ｐ－１礫出土状態（南西から）

Ｐ－２礫出土状態（西から）

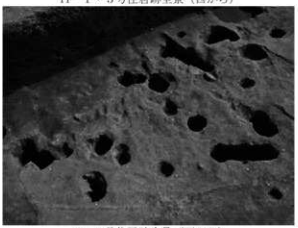
Ｐ－３・４礫出土状態（南から）

Ｈ－１号住居跡遺物出土状態（西から）

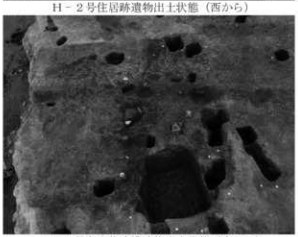
Ｈ－１・３号住居跡全景（西から）



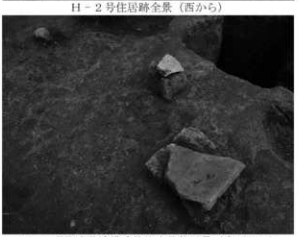
Ｈ－２号住居跡遺物出土状態（西から）



Ｈ－２号住居跡全景（西から）

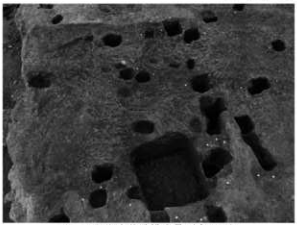


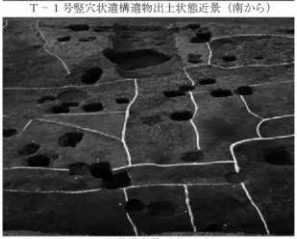
Ｔ－１号竪穴状遺構遺物出土状態（南から）



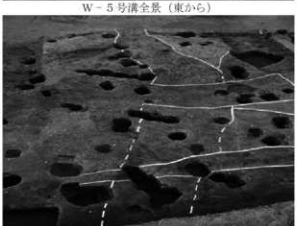
Ｔ－１号竪穴状遺構遺物出土状態近景（南西から）

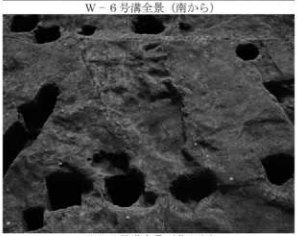
T－1号竪穴状遺構遺物出土状態近景（南から）

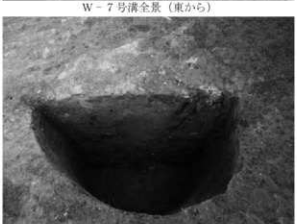

T－1号竪穴状遺構全景（南から）

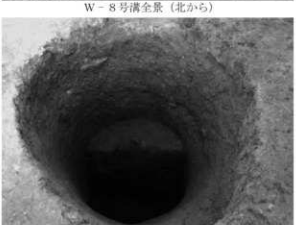

W－5号溝全景（東から）

W－6号溝全景（南から）

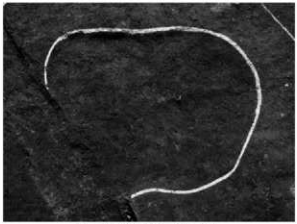

W－7号溝全景（東から）


W－8号溝全景（北から）

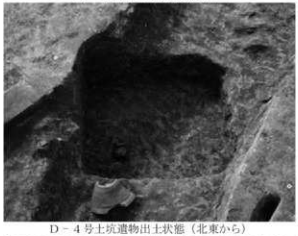

I－1号井戸土層断面上層（南から）

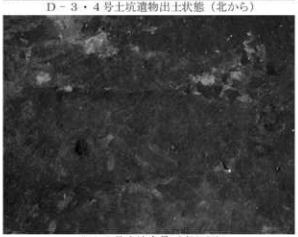

I－1号井戸土層断面中層（南から）

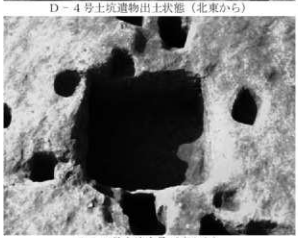
Ｄ－１号土坑土層断面（南から）


Ｄ－１号土坑全景（北から）

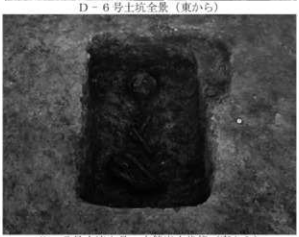
Ｄ－３・４号土坑遺物出土状態（北から）


Ｄ－４号土坑遺物出土状態（北東から）


Ｄ－５号土坑全景（東から）

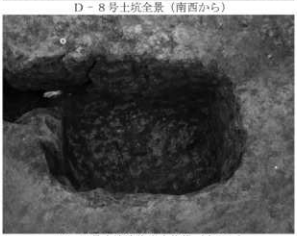

Ｄ－６号土坑全景（東から）

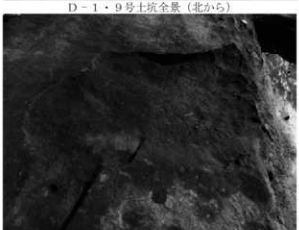
Ｄ－７号土坑土層断面（南から）

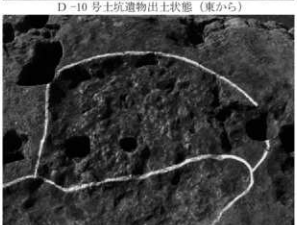

Ｄ－７号土坑人骨・古銭出土状態（南から）

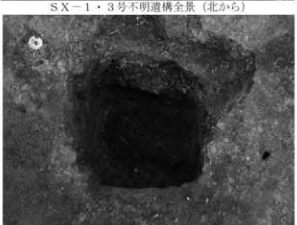
Ｄ－８号土坑全景（南西から）

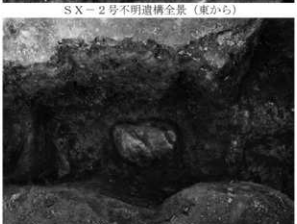
Ｄ－１・９号土坑全景（北から）

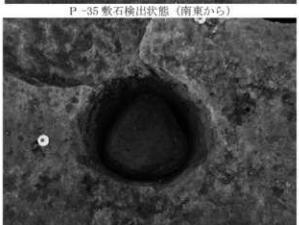

Ｄ－10 号土坑遺物出土状態（東から）


ＳＸ－１・３号不明遺構全景（北から）


ＳＸ－２号不明遺構全景（東から）


Ｐ－35 敷石検出状態（南東から）


Ｐ－46 敷石検出状態（南東から）

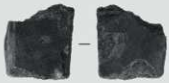

Ｐ－137 敷石検出状態（南東から）

H－1住

1住－1

1住－2

H－2住



2住－1

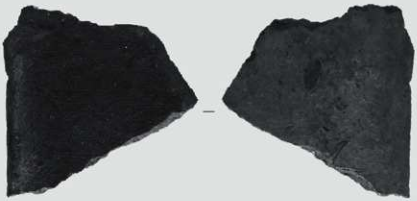
T－1号竪穴状遺構

竪1－1

竪1－4

竪1－2

竪1－3



竪1－5

竪1－6

土塁（1）

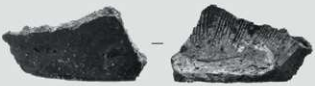
土－1

土－3

土－4

出土遺物（1）

土塁（2）



土-5

土-2

土-6

土-7

W-1号溝

W1溝-1

W-4号溝（1）

W4溝-1

W4溝-2

W4溝-3

W4溝-4

W4溝-6

W4溝-5

出土遺物（2）

W-4号溝（2）

W4溝-7

W4溝-8

W4溝-9

W4溝-10

出土遺物（3）

W-6号溝

W6溝-1

D-1号土坑

D1土-1

D-5号土坑

D5土-1

D-7号土坑

D7土-1

D7土-2

D7土-3

D7土-4

D7土-5

D7土-6

D-3号土坑

D3土-1

P-31

P31-1

P-71

P71-1

P-94

P94-1

P-136

P136-1

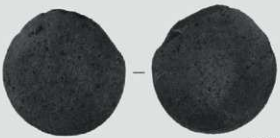
P-121

P121-1

ＳＸ－３号不明遺構

SX3-1

ＳＸ－１号不明遺構



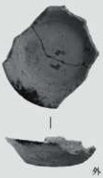
SX1-1

遺構外

外-1

外-2

外-4



外-3

外-6

外-5

出土遺物（4）

抄　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン 126
書名	元総社蒼海遺跡群（126）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	小峰篤・山本千春
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市総社町3-11-4　℡ 027-280-6511
発行年月日	西暦 2018 年 3 月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （日本測地系）	東経 （日本測地系）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
もとそうじゃおうみ 元総社蒼海 いせきぐん 遺跡群（126）	ぐんまけんまえばしし もとそう 群馬県前橋市元総 しゃまち 社町 1893-2 ほか	10201	28 A 233	36° 23′ 24″	139° 02′ 00″	20171002 ～ 20171117	491.0	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（126）	集落跡	平安	住居跡	3軒	土器	蒼海城の土塁および堀跡
	城館跡	中・近世	竪穴状遺構	1基	瓦	
	墓域		土塁		陶磁器	
	その他		溝（堀含む）	8条	石製品	
			井戸	1基	金属製品	
			土坑（墓坑含む）	9基	骨	
			ピット	188基		
			不明遺構	3基		

元総社蒼海遺跡群（126）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 30 年 3 月 15 日印刷
平成 30 年 3 月 23 日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／前橋市教育委員会
前橋市総社町3-11-4
℡ 027-280-6511
印　刷／朝日印刷工業株式会社